

南丹市総合振興計画策定に係る

まちづくりアンケート調査結果
報告書

平成 19 年 1 月

南 丹 市

目次

I 調査の概要	1
1 調査の目的	2
2 調査方法	2
3 回収状況	2
II 調査結果	3
1 回答者の属性	4
(1) 性別	
(2) 年齢	
(3) 居住地	
(4) 職業	
2 南丹市の住みごころ	7
(1) 住みごころ	
(2) 住みやすい理由	
(3) 住みにくい理由	
3 合併に対する評価	15
(1) 合併によって良くなったこと	
(2) 合併によって今後期待すること	
(3) 合併への期待と評価 ～合併前と合併後の比較～	
(4) 合併への不満や不安-① ～合併後の意識～	
(5) 合併への不満や不安-② ～合併前と合併後の比較～	
4 南丹市の将来の姿やまちづくりへの参加意向	31
(1) 将来の南丹市をどのようなまちにしたいか	
(2) 南丹市を住みよいまちにするために市民ができること	
(3) 自分自身が参加できるまちづくり	
III 調査結果の分析	40

I 調査の概要

1 調査の目的

「南丹市総合振興計画」策定の基礎資料として活用するため、市民を対象にまちづくりに対する考え方、参加意向やニーズを調査しました。

2 調査方法

調査基準日 平成 18 年 10 月 1 日
調査対象 16 歳以上の市民
調査実施方法 郵送による配布・回収
調査期間 平成 18 年 11 月 2 日～11 月 19 日

3 回収状況

項目	人数、%	備考
調査対象者数	31,385 人	旧園部町…13,891 人、旧八木町…7,692 人、旧日吉町… 5,248 人、旧美山町…4,554 人
調査数	3,000 人	旧園部町…951 人、旧八木町…745 人、旧日吉町…663 人、旧美山町…641 人
有効回収数	1,351 人	旧園部町…372 人、旧八木町…358 人、旧日吉町…287 人、旧美山町…320 人
有効回収率	45.0%	旧園部町…39.1%、旧八木町…48.1%、旧日吉町…43.3%、旧美山町…49.9%

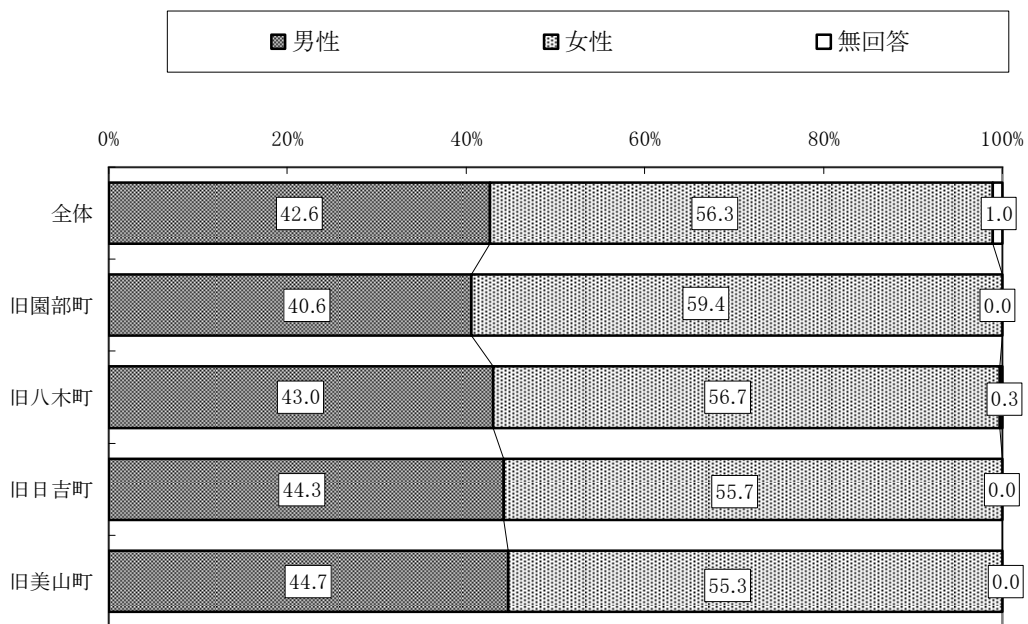
Ⅱ 調査結果

1 回答者の属性

(1) 性別

あなたの性別は、どちらですか。《1つだけ選んでください》

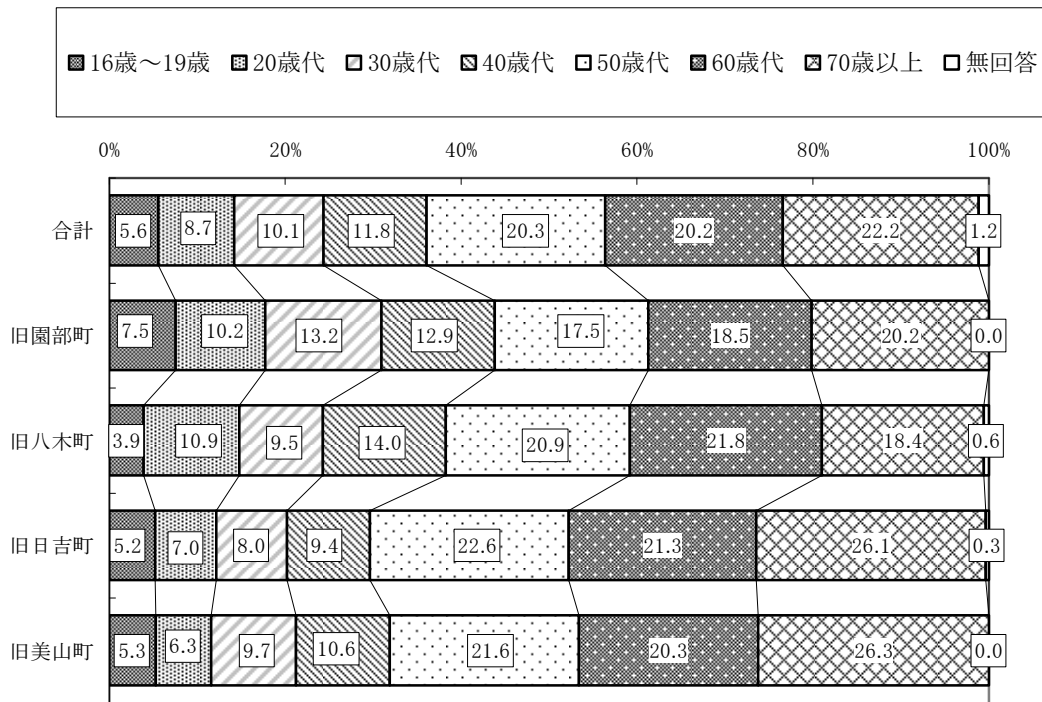
全体数=1,351



(2) 年齢

あなたの年齢は、どれにあたりますか。《1つだけ選んでください》

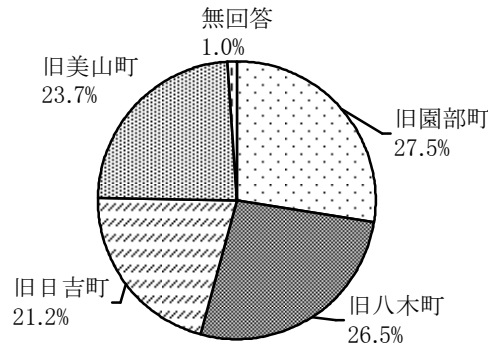
全体数=1,351



(3) 居住地

あなたのお住まいは、どちらですか。《1つだけ選んでください》

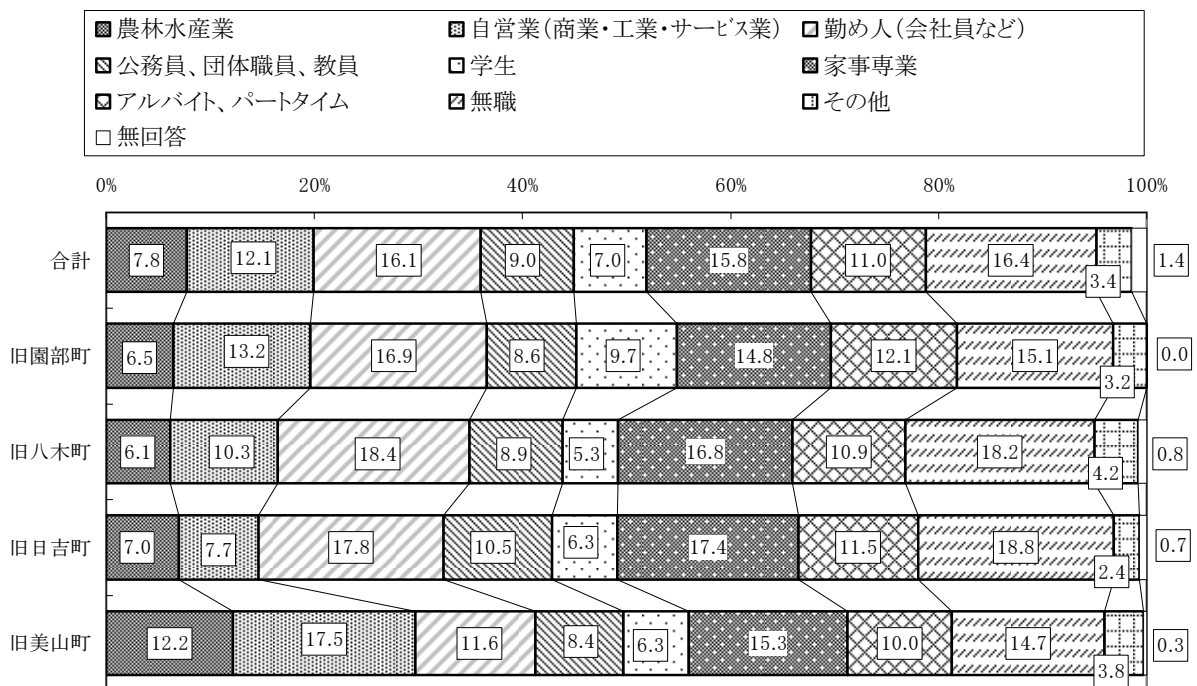
全体数=1,351



(4) 職業

あなたの職業は、どれにあたりますか。《1つだけ選んでください》

全体数=1,351



2 南丹市の住みごち

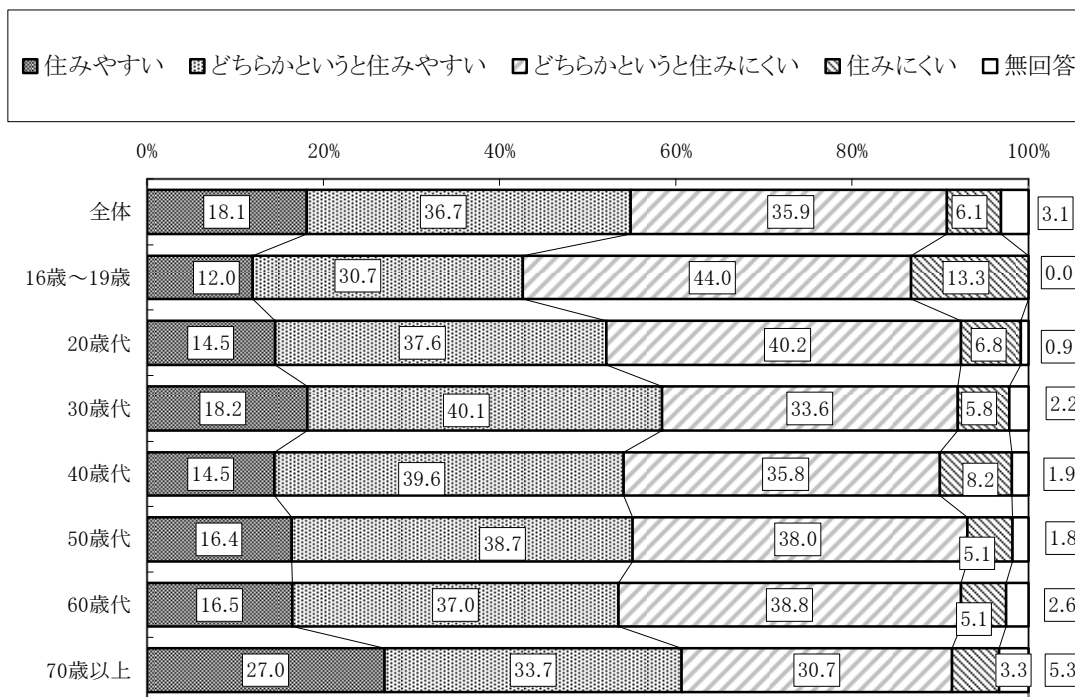
(1) 住みごち

南丹市は住みやすいと思いますか。《1つだけ選んでください》

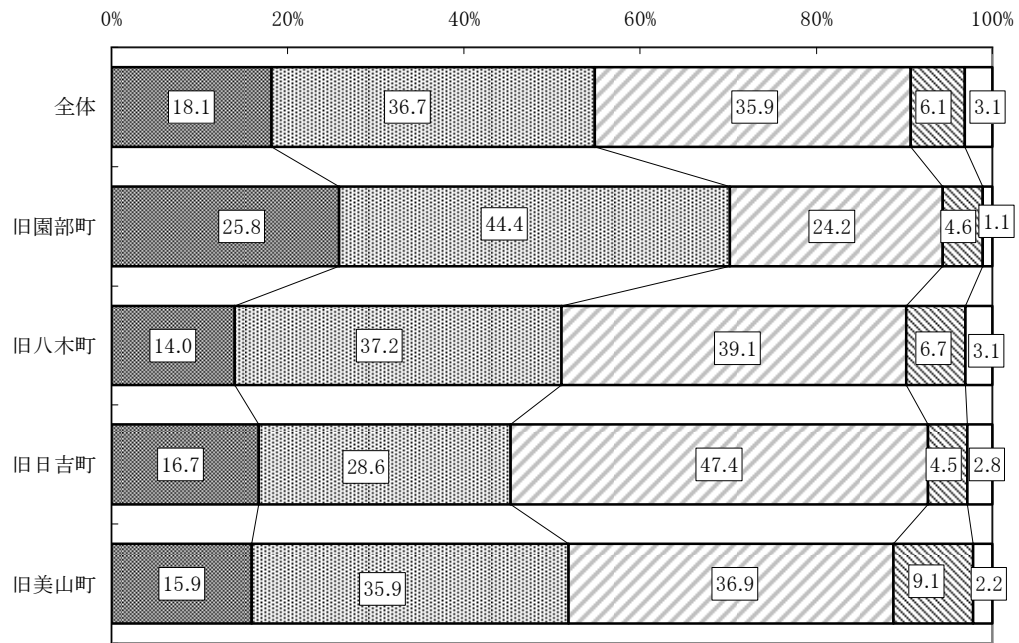
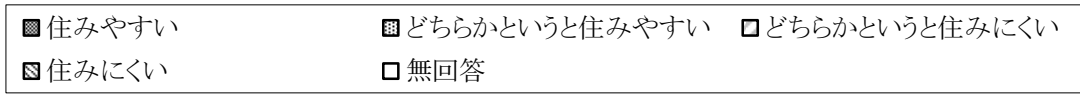
全体数=1,351

- 全体では、「住みやすい」「どちらかという住みやすい」の合計が 54.8%、「どちらかという住みにくい」「住みにくい」の合計が 42.0%となっています。
- 年齢層別では、「住みやすい」「どちらかという住みやすい」の合計は30歳代と70歳以上でやや高く、10歳代で低くなっています。
- 居住地別では、「住みやすい」「どちらかという住みやすい」の合計は旧園部町の住民で高くなっています。

<年齢層別>



<居住地別>



(2) 住みやすい理由

前の問で「住みやすい」「どちらかというに住みやすい」を選んだ方にお聞きします。住みやすいと思う理由は何ですか。《3つまで選んでください》。

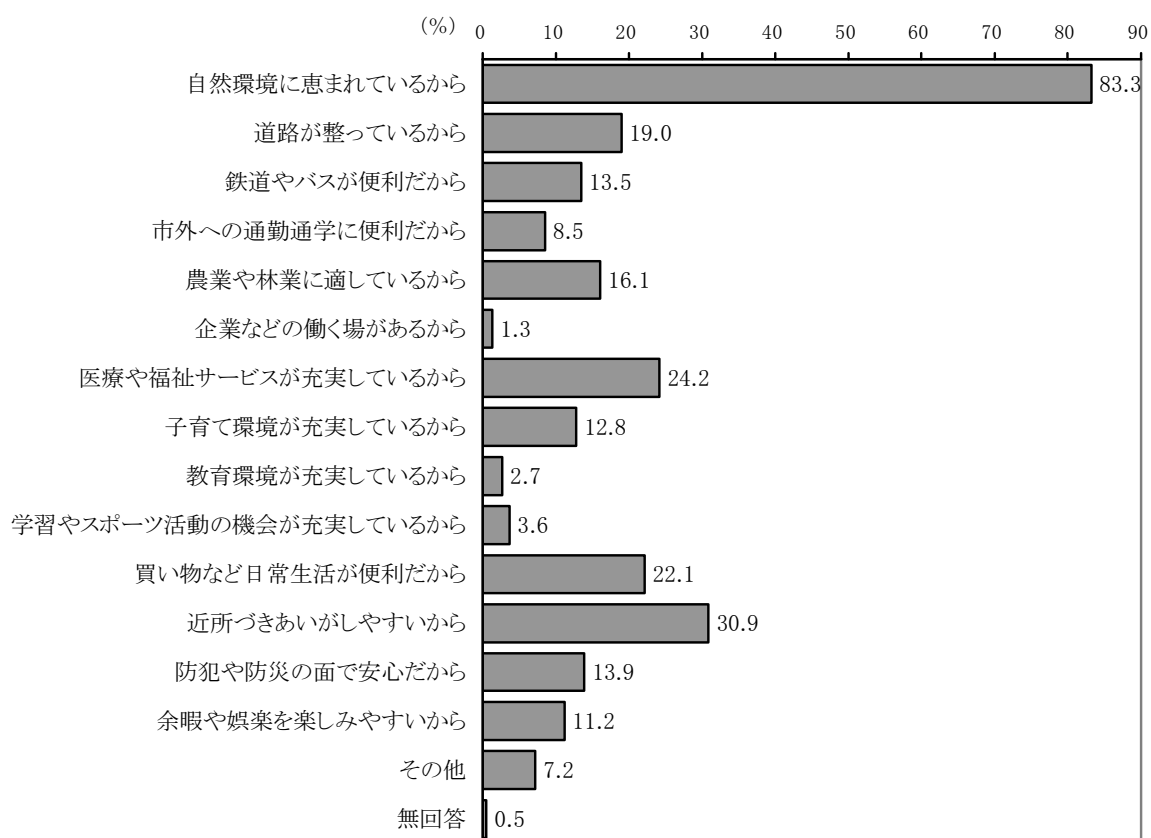
全体数=741

○全体では、「自然環境に恵まれている」が83.3%と特に多くなっています。

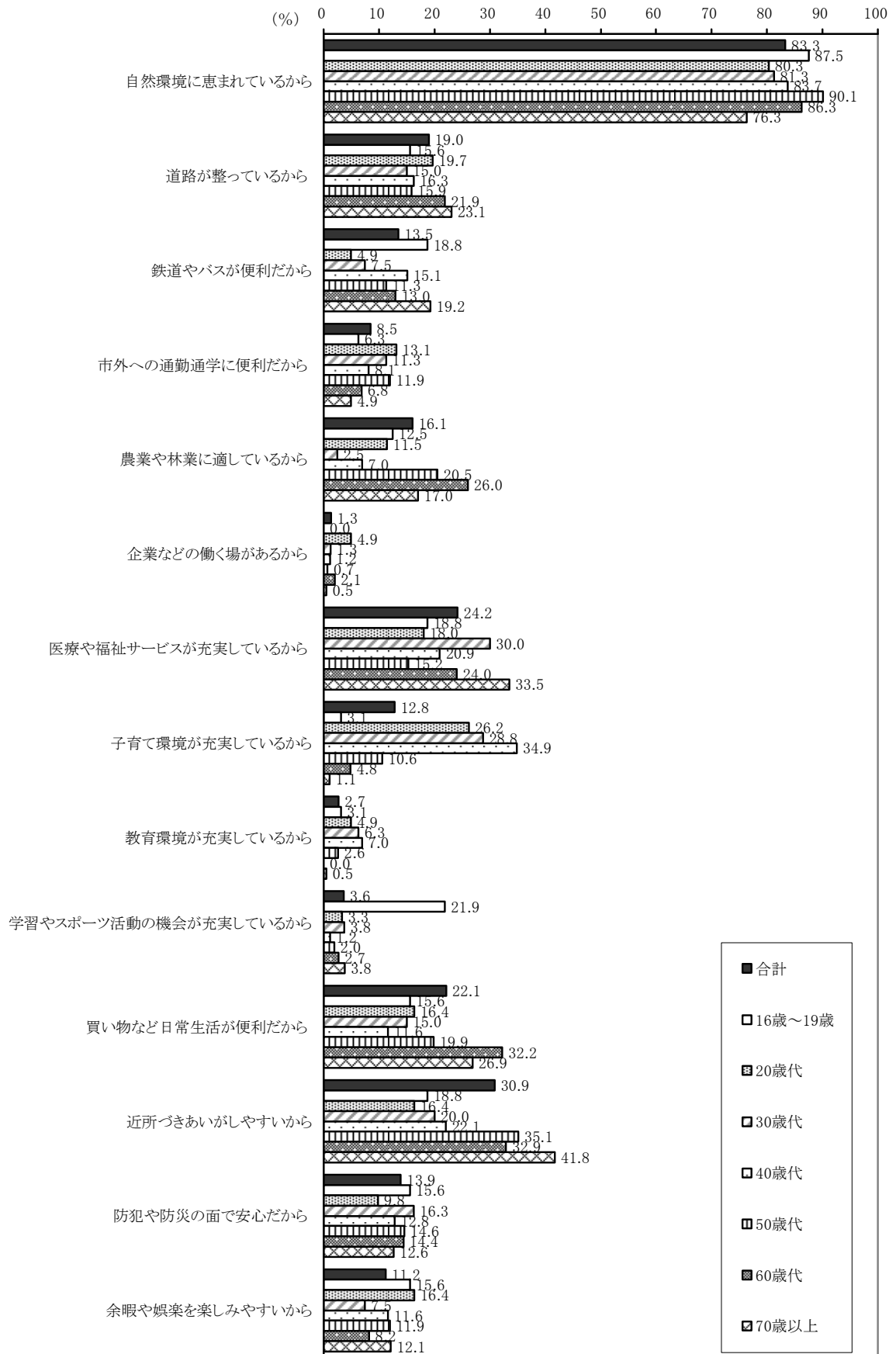
○年齢層別では、「農業や林業に適しているから」は50歳代以上で高く、「医療や福祉サービスが充実しているから」は30歳代と70歳以上で高く、「子育て環境が充実しているから」は20~40歳代で高くなっています。また、「近所づきあいがしやすいから」はほぼ年齢が高くなるにつれて回答率が高くなる傾向が見られます。

○居住地別では、旧園部町で「道路が整っているから」「子育て環境が充実しているから」「買い物など日常生活が便利だから」が高く、旧八木町で「鉄道やバスが便利だから」が高く、旧日吉町と旧美山町で「農業や林業に適しているから」「近所づきあいがしやすいから」が高くなっています。他の選択肢においても居住地別の違いが目立つ結果となっています。

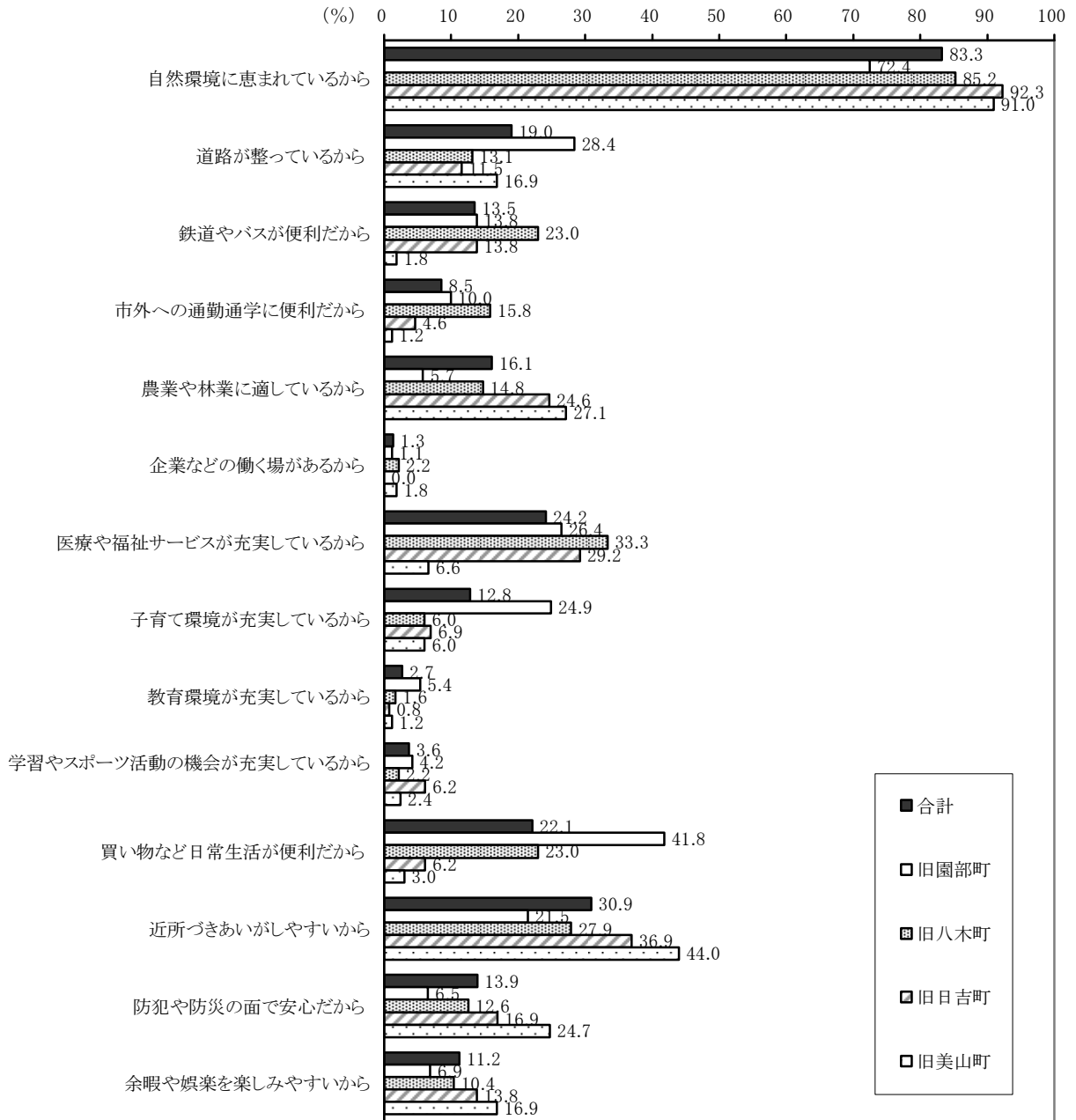
<全体>



<年齢層別（その他、無回答は表示せず）>



<居住地別（その他、無回答は表示せず）>



(3) 住みにくい理由

前々問で「どちらかという住みにくい」「住みにくい」を選んだ方にお聞きします。住みにくいと思う理由は何ですか。《3つまで選んでください》

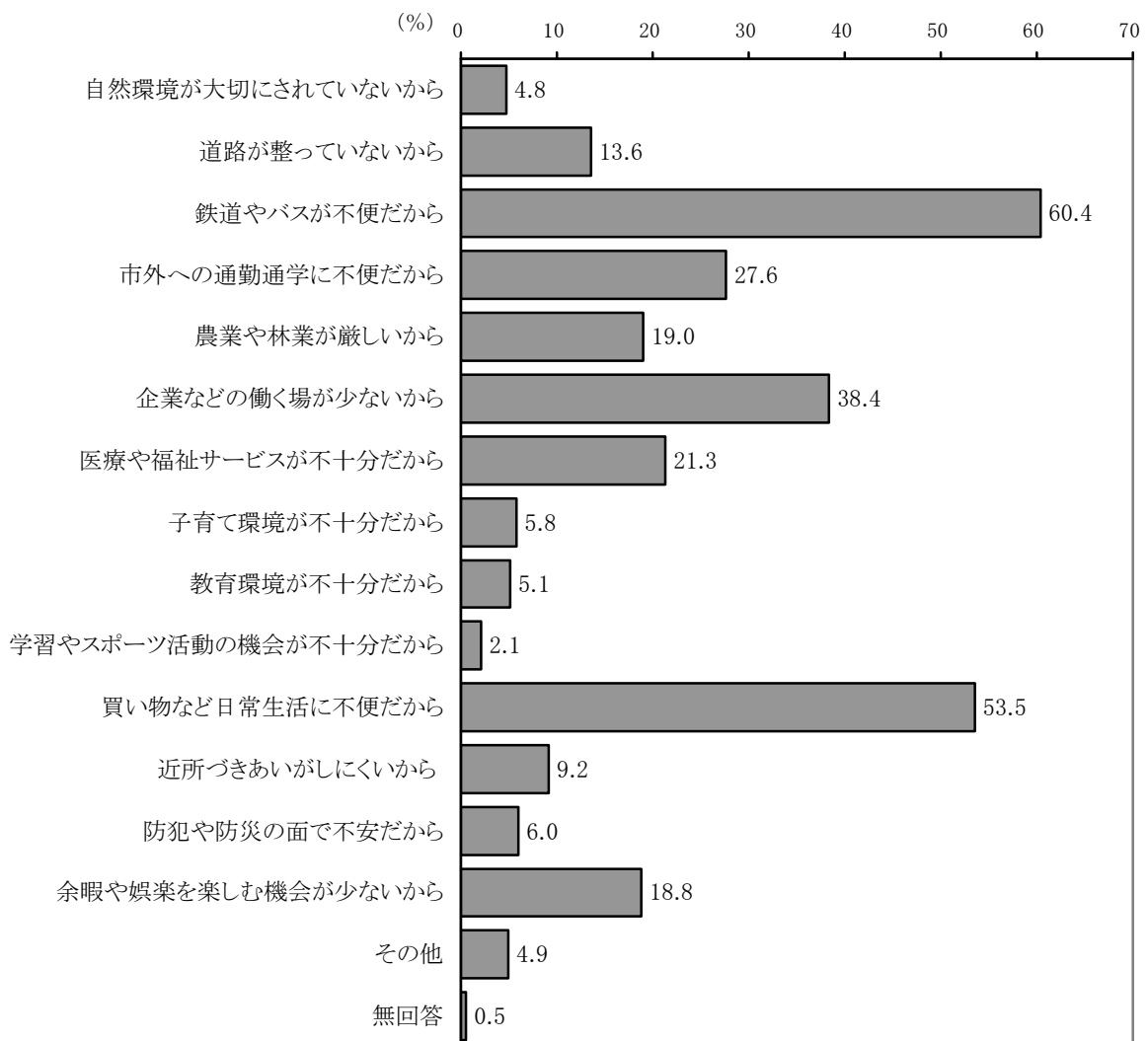
全体数=568

○全体では、「鉄道やバスが不便だから」が60.4%と最も多く、次いで「買い物など日常生活に不便だから」53.5%、「企業等の働く場が少ないから」38.4%の順となっています。

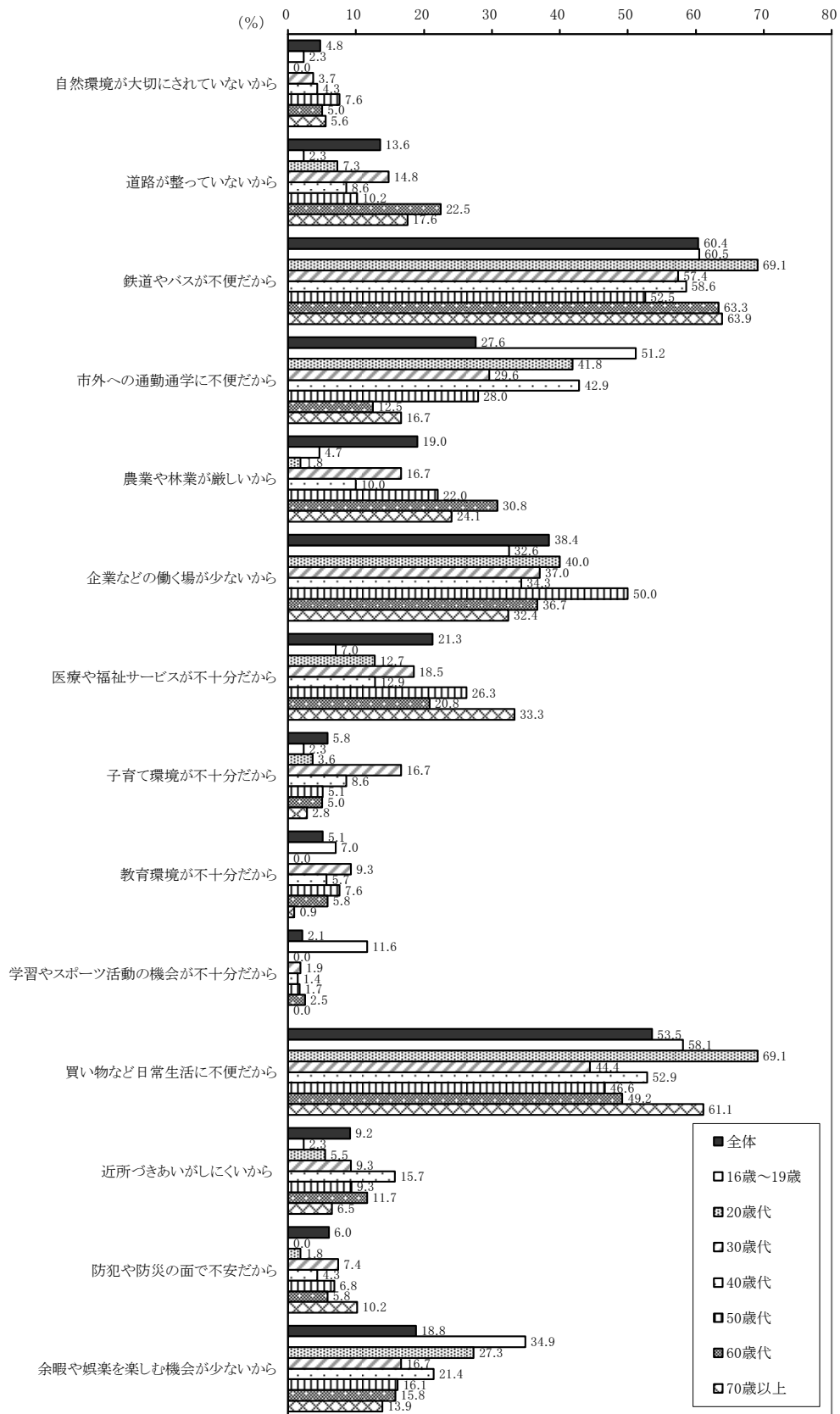
○年齢層別では、10歳代で「市外への通勤通学に不便だから」「余暇や娯楽を楽しむ機会が少ないから」が高く、20歳代で「買い物など日常生活に不便だから」が高く、50歳代で「企業などの働く場が少ないから」が高くなっています。

○居住地別では、旧美山町で「医療や福祉サービスが不十分だから」が44.2%と、他地域よりも目立って高くなっています。他の選択肢においても居住地別の違いが目立つ結果となっています。

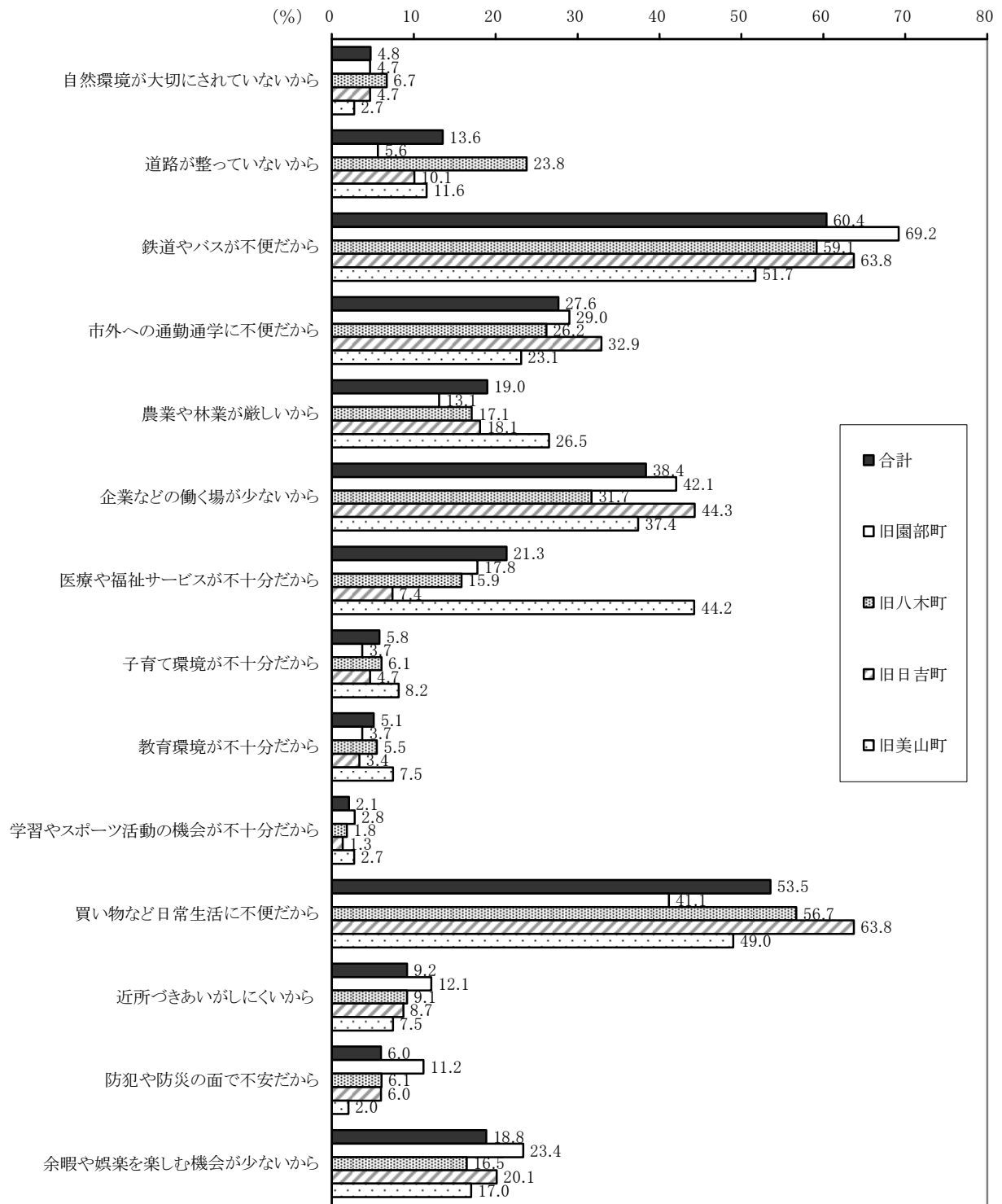
<全体>



<年齢層別（その他、無回答は表示せず）>



<居住地別（その他、無回答は表示せず）>



3 合併に対する評価

(1) 合併によって良くなったこと

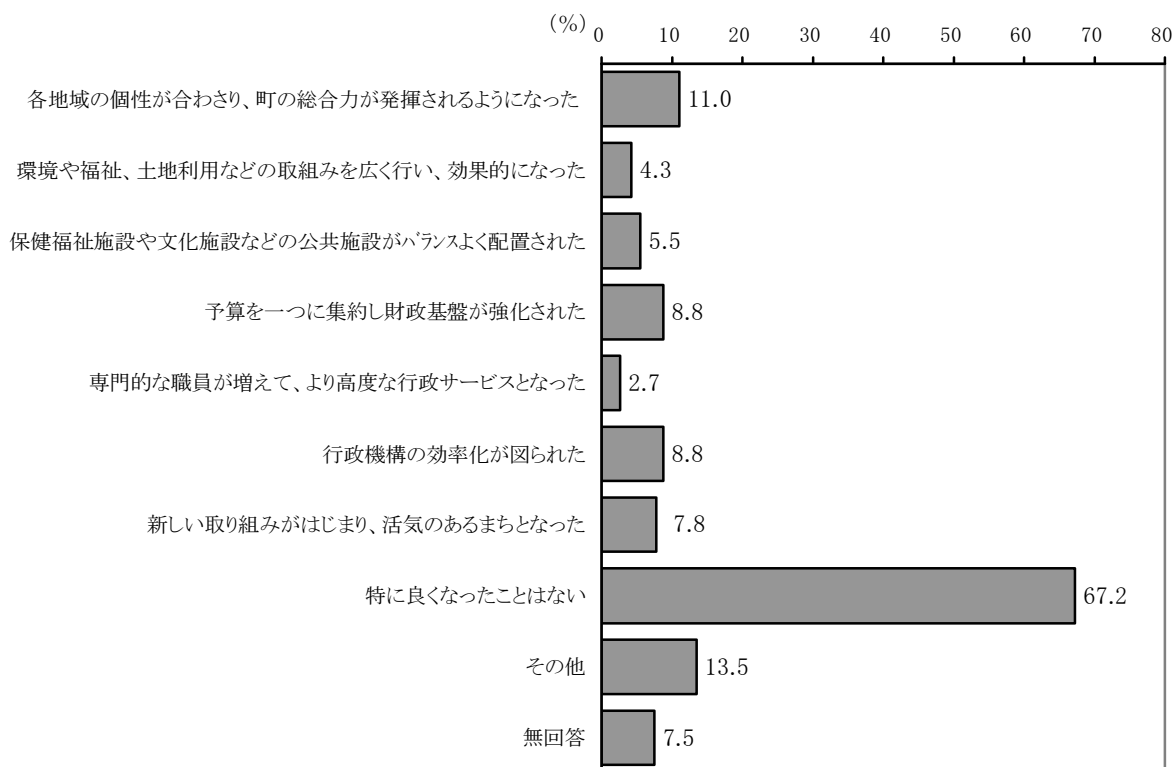
合併によって、良くなったと思えることは何ですか。《2つまで選んでください》

全体数=1,351

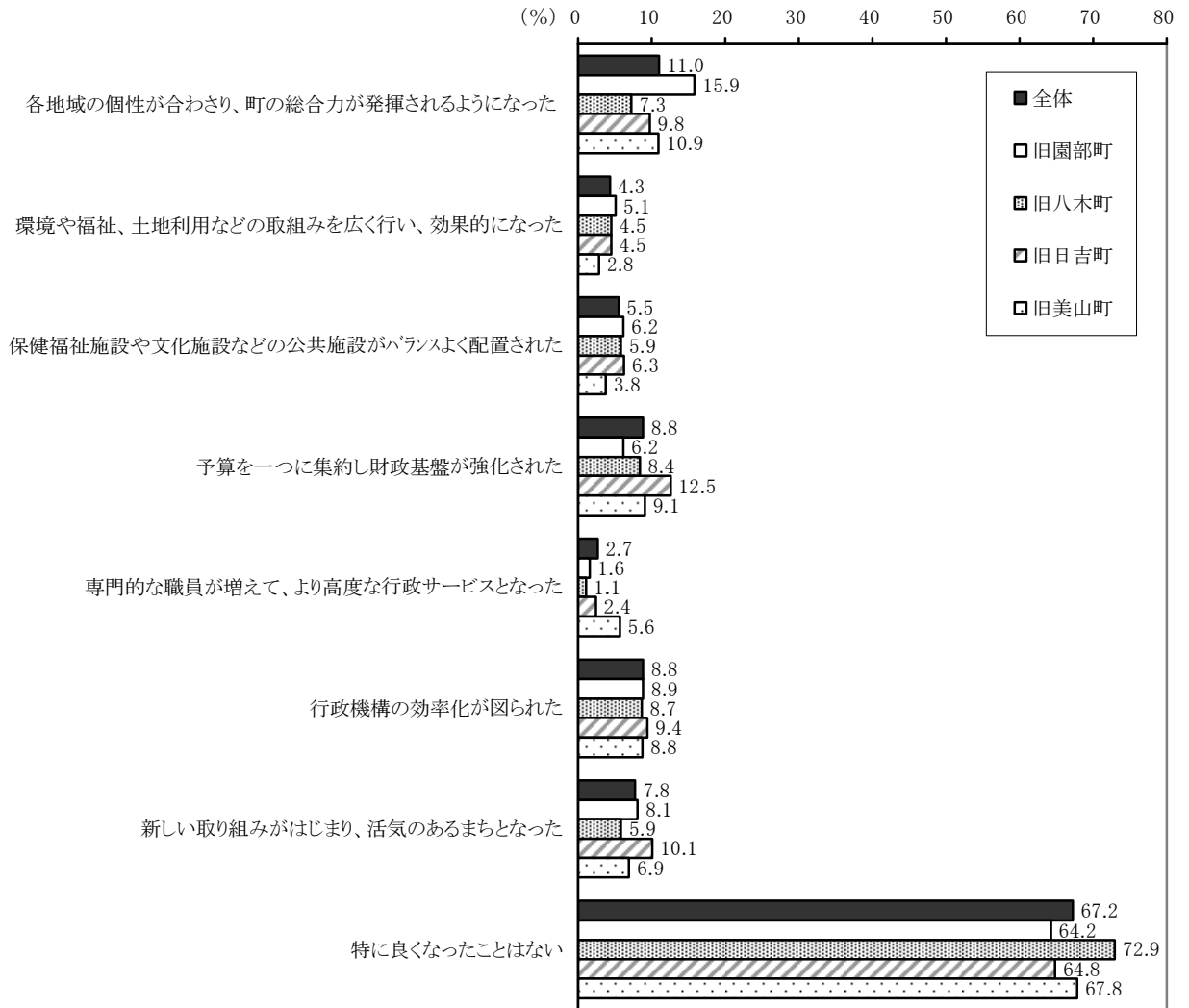
○ 全体では、「特に良くなっていない」が67.2%と最も多く、多くの市民がまだ合併の成果が出ていないと感じています。

○ 居住地別には、特に目立った差（10ポイント以上の差）は見られません。

<全体>



<居住地別（その他、無回答は表示せず）>



(2) 合併によって今後期待すること

では、合併によって、今後期待することは何ですか。《2つまで選んでください》

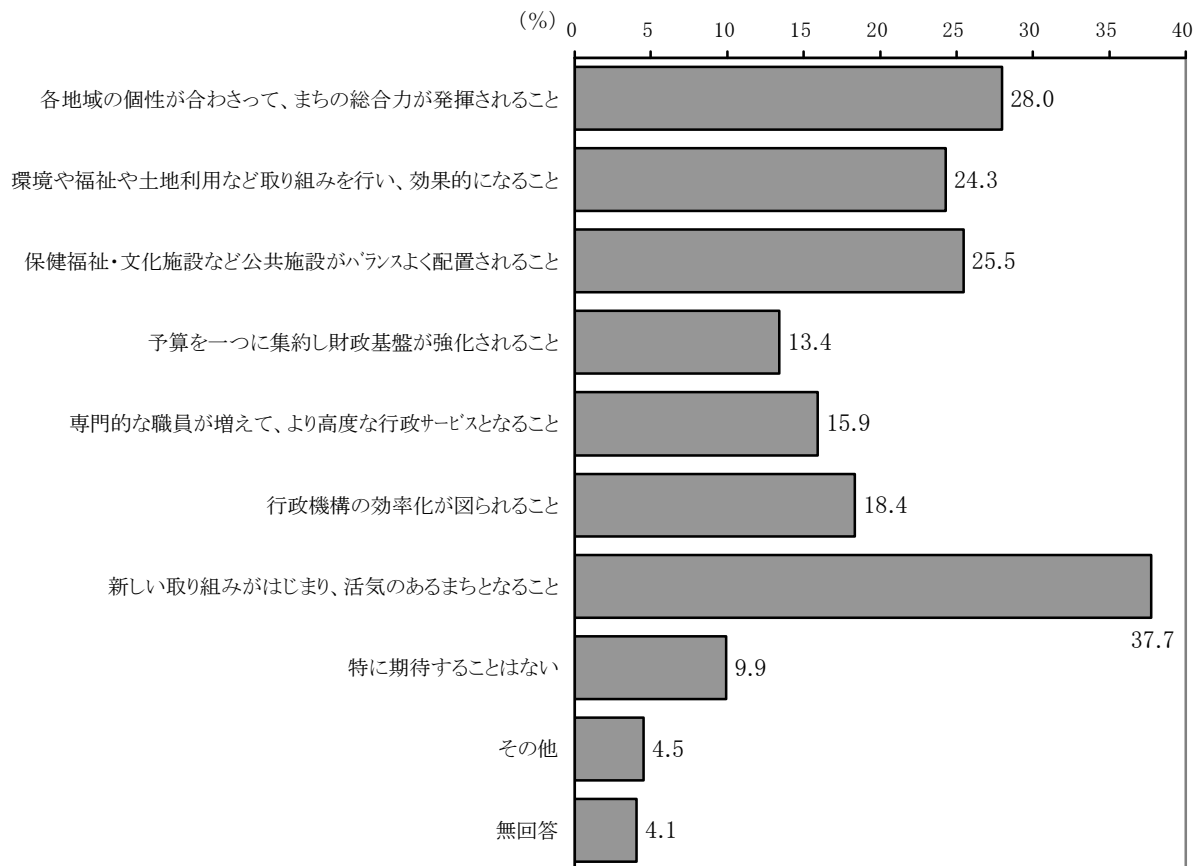
全体数=1,351

○全体では、「新しい取り組みがはじまり、活気のあるまちとなること」が37.7%と最も多く、次いで「各地域の個性が合わさって、まちの総合力が発揮されること」28.0%、「保健福祉施設や文化施設などの公共施設がバランスよく配置されること」25.5%、「環境や福祉、土地利用などの取り組みを広く行い、効果的になること」24.3%の順となっています。「特に期待することはない」は9.9%に留まり、前問の結果と照らし合わせると、合併の効果はまだ評価していないものの今後期待をしている市民が多いことがうかがえます。

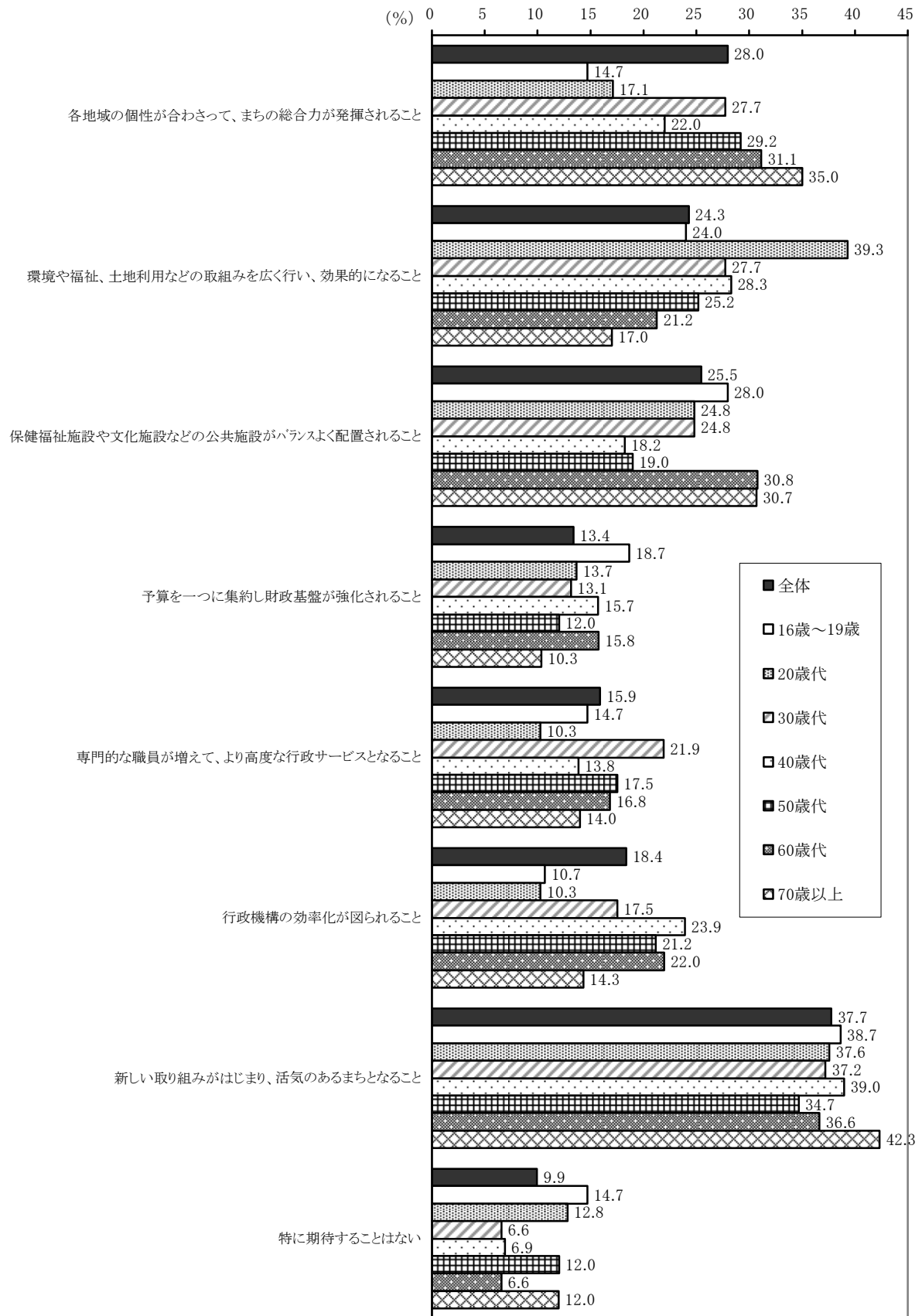
○年齢層別では、20歳代で、「環境や福祉、土地利用などの取り組みを広く行い、効果的になること」が39.3%と他の世代より高い回答となっています。

○居住地別には、特に目立った差（10ポイント以上の差）は見られません。

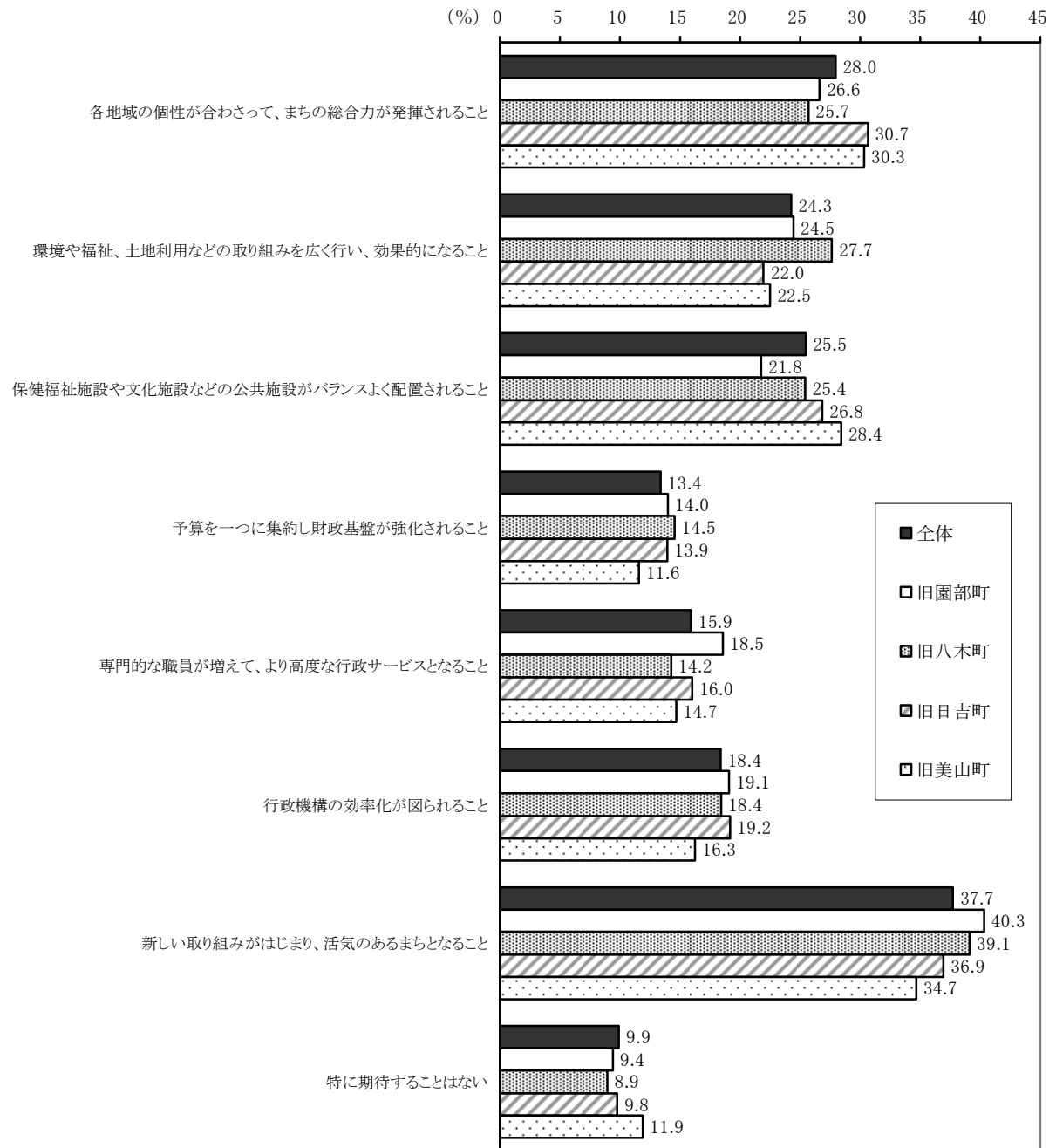
<全体>



<年齢層別（その他、無回答は表示せず）>

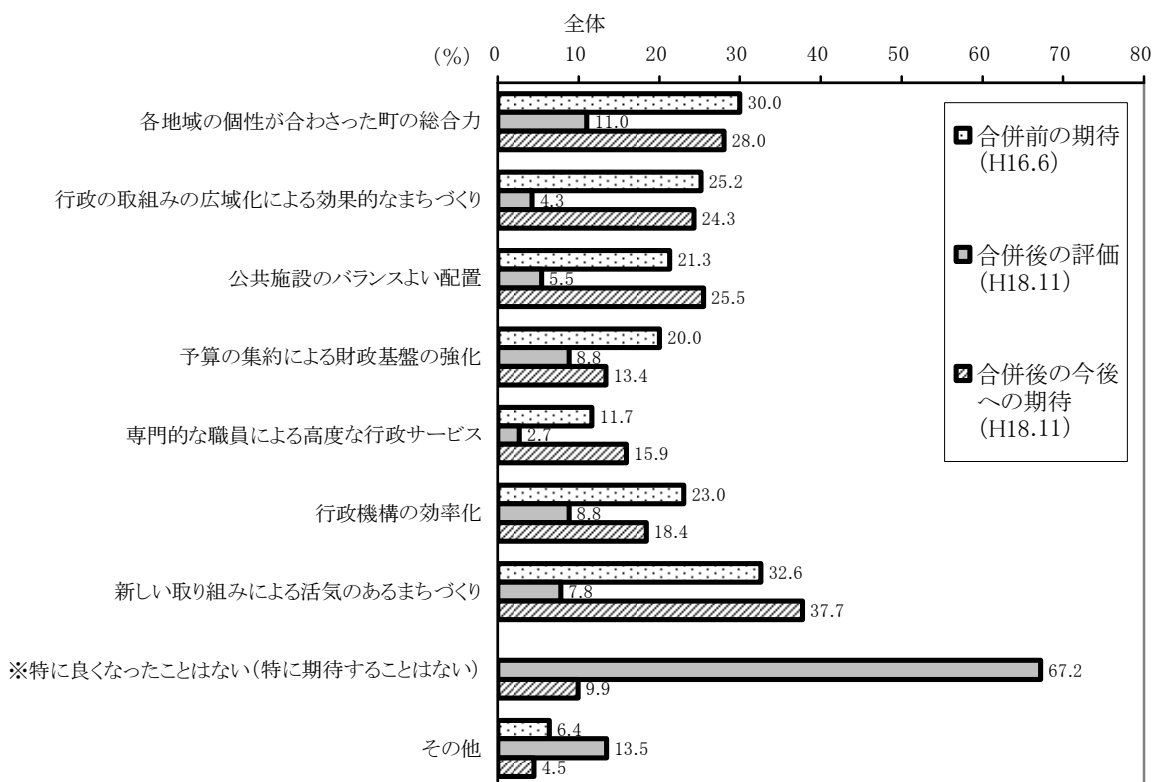


<居住地別（その他、無回答は表示せず）>



(3) 合併への期待と評価 ～合併前と合併後の比較～

- 合併前の平成 16 年 6 月に実施した新しいまちづくりに向けたアンケートでは、前の(1)(2)とほぼ同内容の選択肢を設定して合併に対する期待をたずねています。当時の結果と今回の結果を比較すると、全体では合併後間もないこともあり、いずれの項目においても合併前の期待に比べ現在の評価は低くなっていますが、合併前の期待に比べ、合併後の今後の期待が 5 ポイント以上高くなった項目として、「新しい取り組みによる活気のあるまちづくり」(合併前 32.6%、合併後 37.7%)があります。逆に 5 ポイント以上低くなった項目として、「予算の集約による財政基盤の強化」(合併前 20.0%、合併後 13.4%)があります。



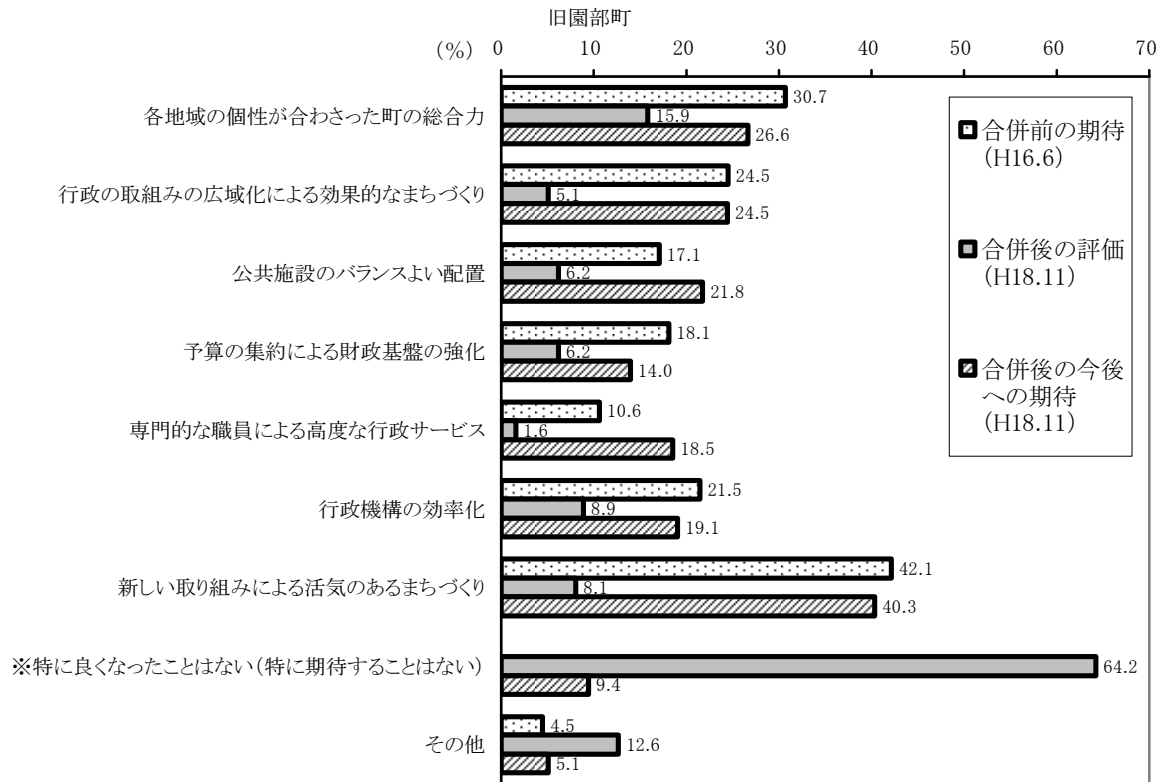
※H16 年アンケートにない選択肢

○居住地別に期待度の変化を見ると、旧園部町では合併前の期待に比べ、合併後の今後の期待が5ポイント以上高くなった項目として、「専門的な職員による高度な行政サービス」があります。旧八木町では合併前の期待に比べ、合併後の今後の期待が5ポイント以上高くなった項目として、「公共施設のバランスよい配置」と「新しい取り組みによる活気のあるまちづくり」があります。逆に5ポイント以上低くなった項目として、「予算の集約による財政基盤の強化」と「行政機構の効率化」があります。旧日吉町では合併前の期待に比べ、合併後の今後の期待が5ポイント以上低くなった項目として、「予算の集約による財政基盤の強化」があります。旧美山町では合併前の期待に比べ、合併後の今後の期待が5ポイント以上高くなった項目として、「新しい取り組みによる活気のあるまちづくり」があり、他の地域に比べて目立って大きな増加となっています。逆に5ポイント以上低くなった項目として、「各地域の個性が合わさった町の総合力」と「予算の集約による財政基盤の強化」があり、このうち「予算の集約による財政基盤の強化」は、他の地域に比べて目立って大きな減少となっています。

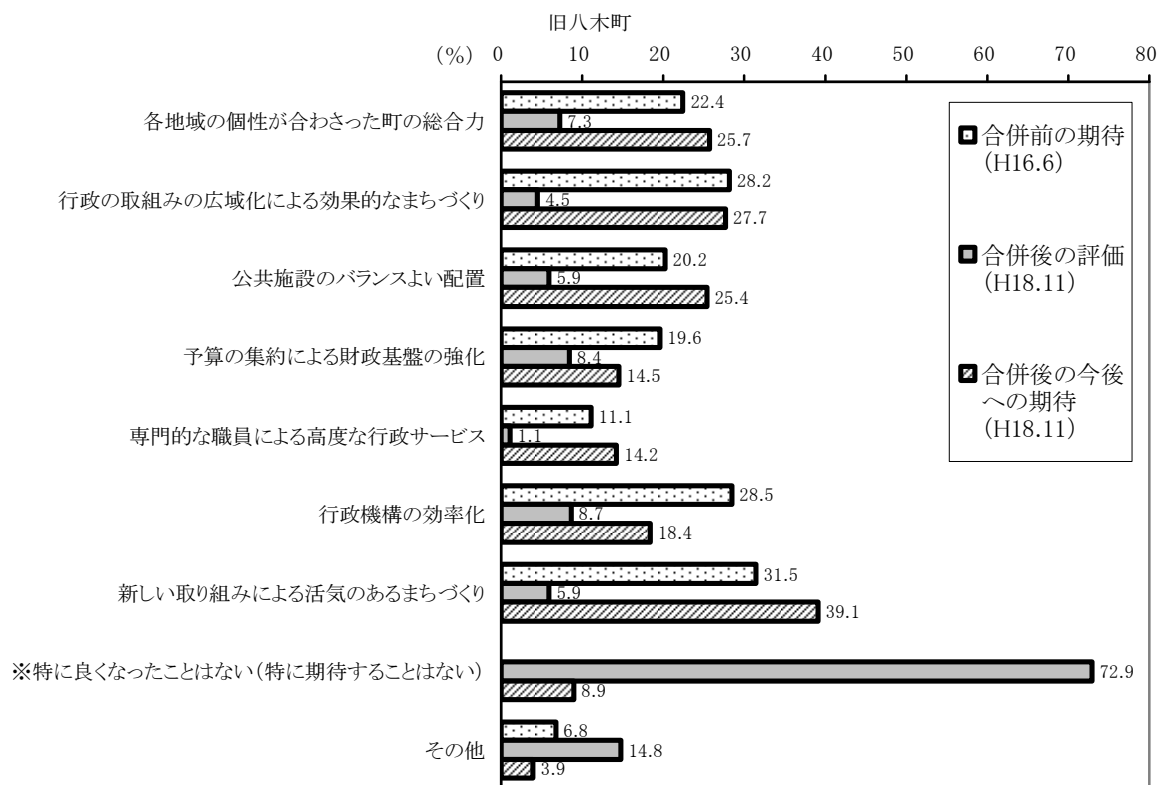
合併後値-合併前値の旧町ごとの比較

	各地域の個性が合わさった町の総合力	行政の取り組みの広域化による効果的なまちづくり	公共施設のバランスよい配置	予算の集約による財政基盤の強化	専門的な職員による高度な行政サービス	行政機構の効率化	新しい取り組みによる活気のあるまちづくり	その他
全体	-2.0	-0.9	4.2	-6.6	4.2	-4.6	5.1	-1.9
園部町	-4.1	0.0	4.7	-4.1	7.9	-2.4	-1.8	0.6
八木町	3.3	-0.5	5.2	-5.1	3.1	-10.1	7.6	-2.9
日吉町	1.6	-4.2	3.0	-5.7	2.4	-2.0	1.6	-2.0
美山町	-8.8	1.0	4.3	-11.3	3.7	-4.2	14.3	-3.8

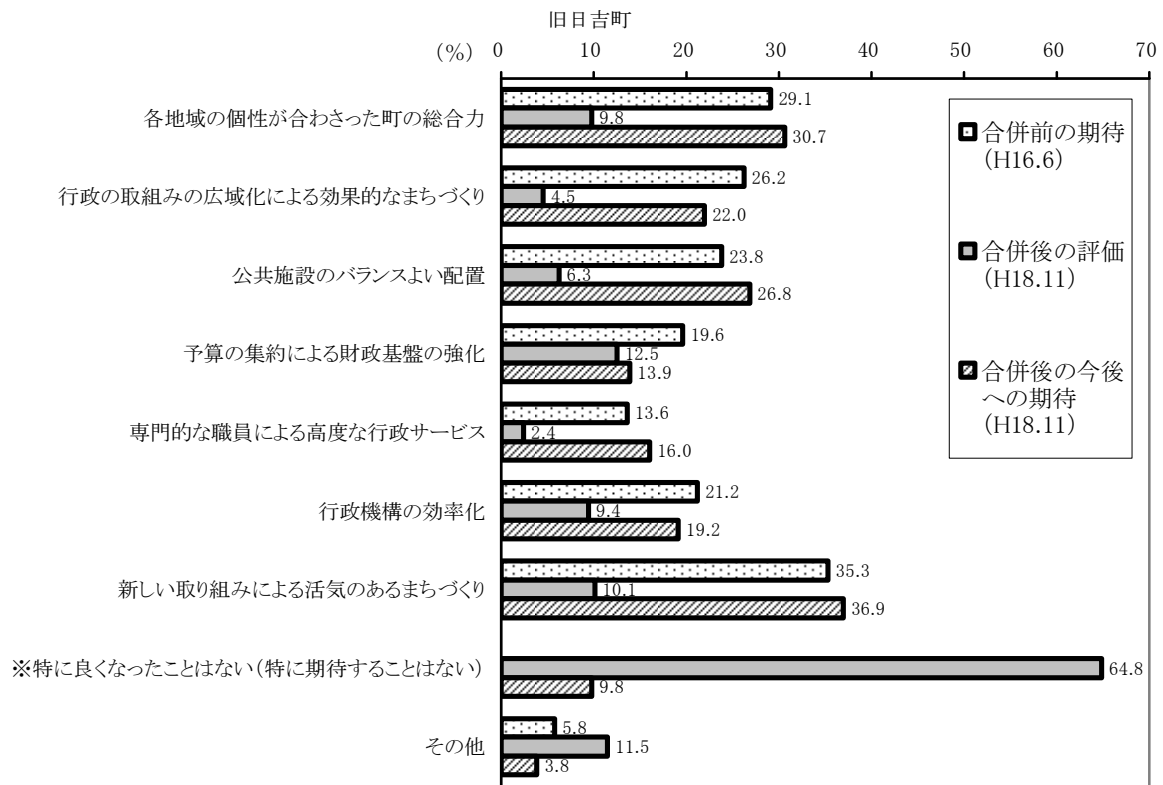
※グレーの網は合併前に比べ5ポイント以上の変化が見られる値



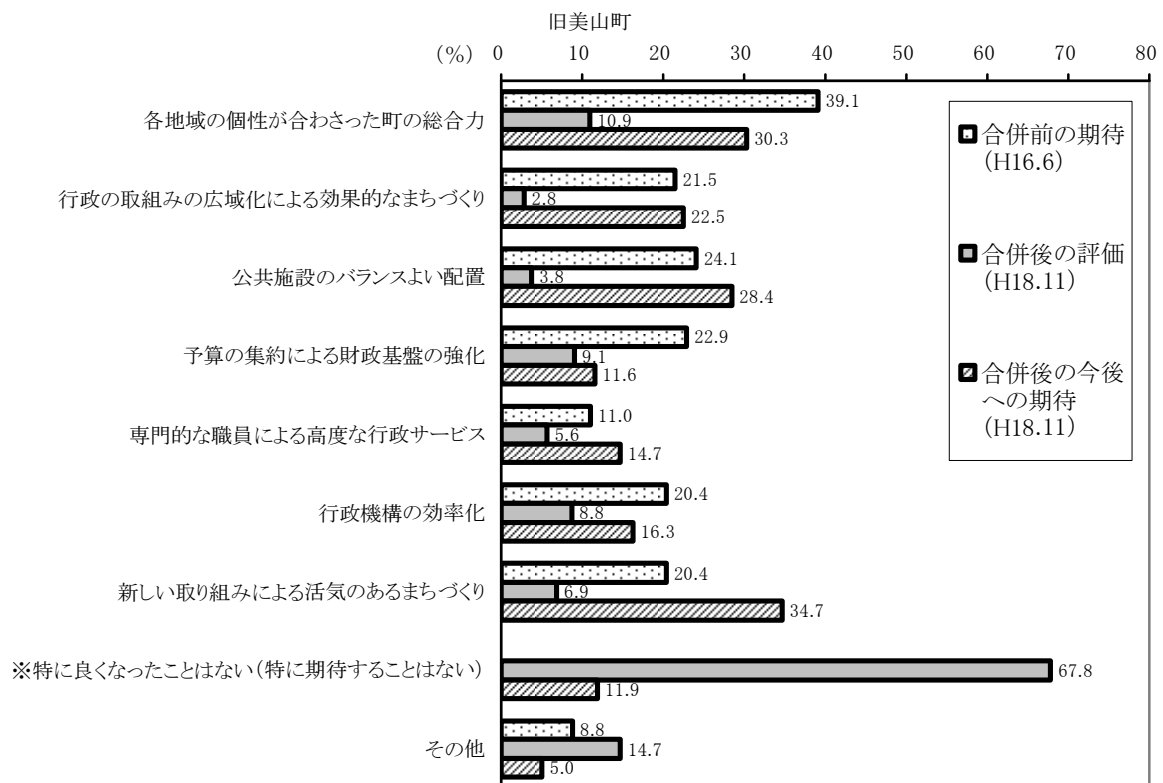
※H16年アンケートにない選択肢



※H16年アンケートにない選択肢



※H16年アンケートにない選択肢



※H16年アンケートにない選択肢

(4) 合併への不満や不安-① ～合併後の意識～

合併してからの不満や不安に思うことは何ですか。《2つまで選んでください》

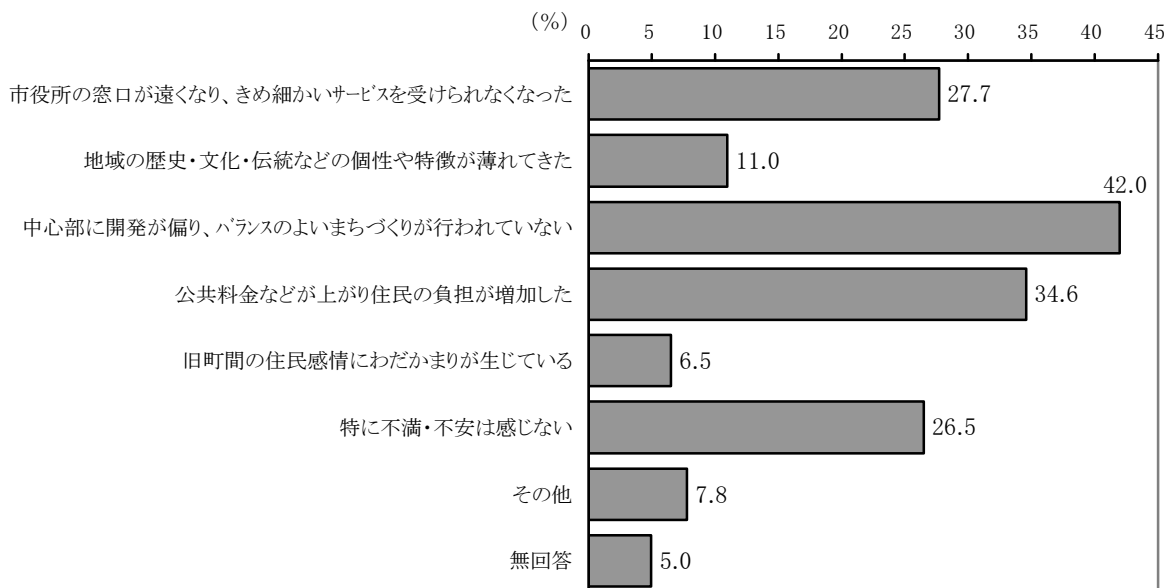
全体数=1,351

○全体では、「中心部に開発がかたより、バランスのよいまちづくりが行われていない」が42.0%と最も多く、次いで「公共料金などが上がり住民の負担が増加した」34.6%となっています。

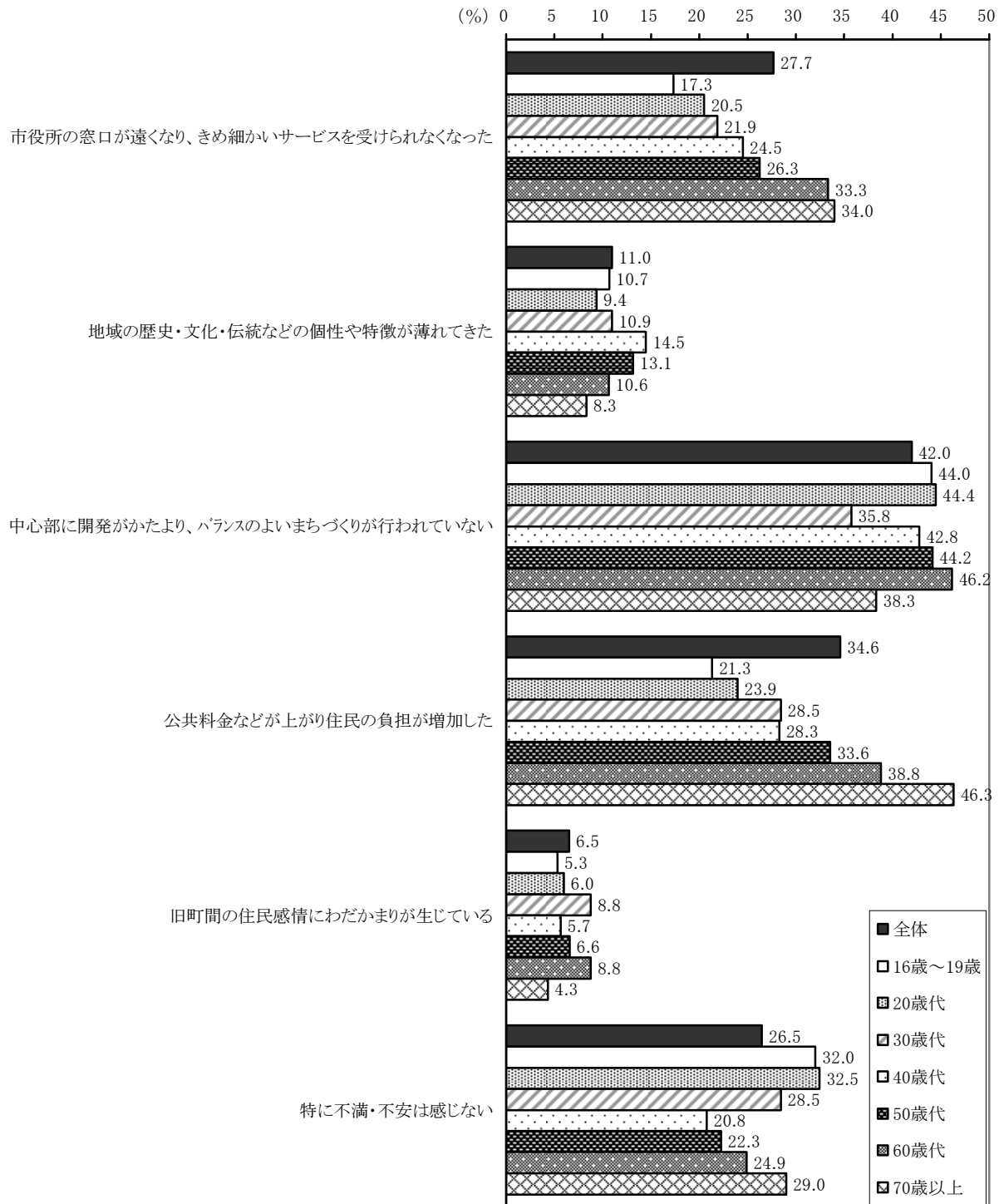
○年齢層別では、「市役所の窓口が遠くなり、きめ細かいサービスを受けられなくなった」と「公共料金などが上がり住民の負担が増加した」は年齢層が高いほど高くなる傾向が見られます。

○居住別地区では、八木町、日吉町、美山町で「市役所の窓口が遠くなり、きめ細かいサービスを受けられなくなった」と「中心部に開発がかたより、バランスのよいまちづくりが行われていない」が園部町に比べて高くなっています。一方、「特に不満・不安は感じない」は園部町で高くなっています。

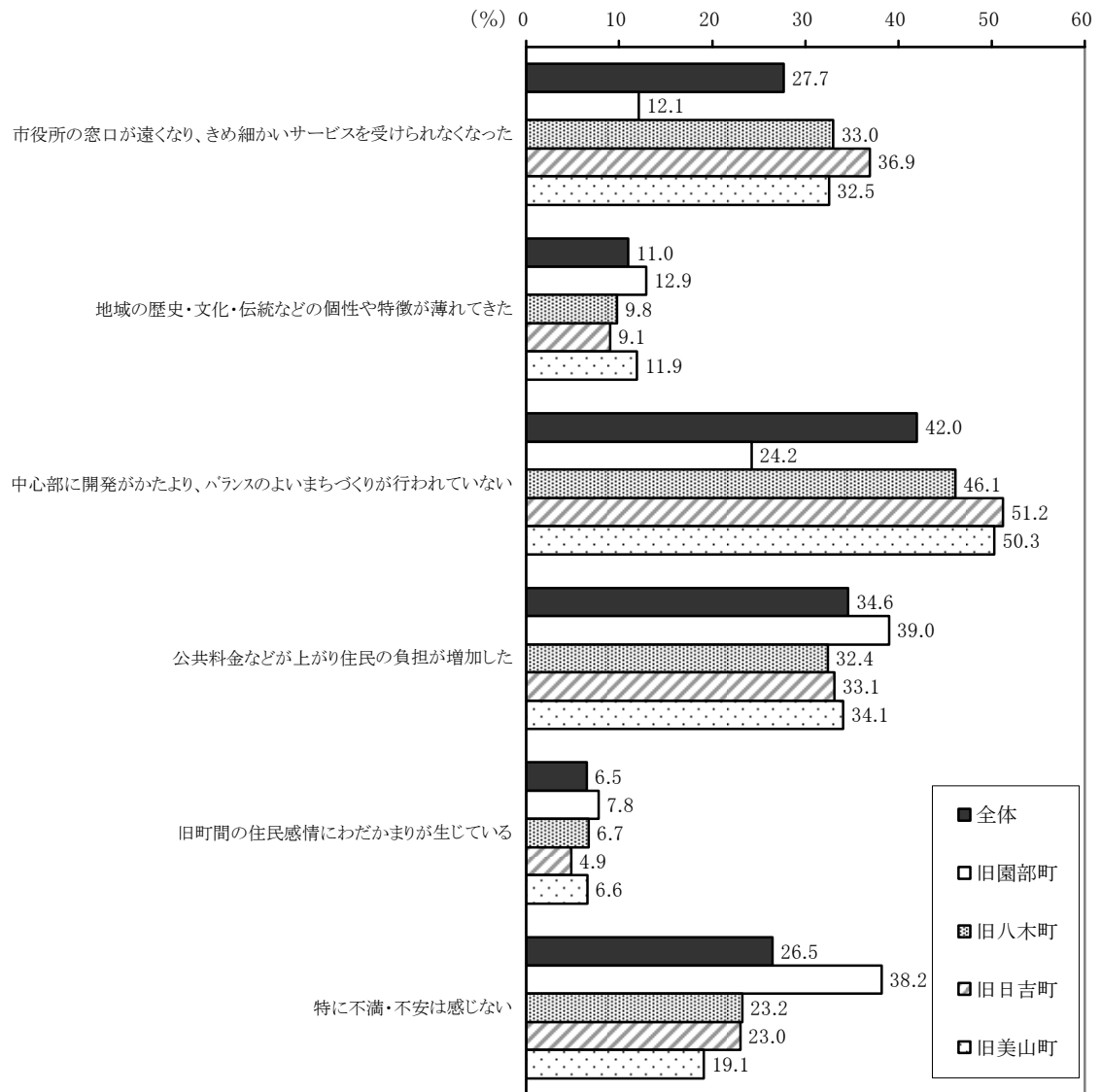
<全体>



<年齢層別（その他、無回答は表示せず）>



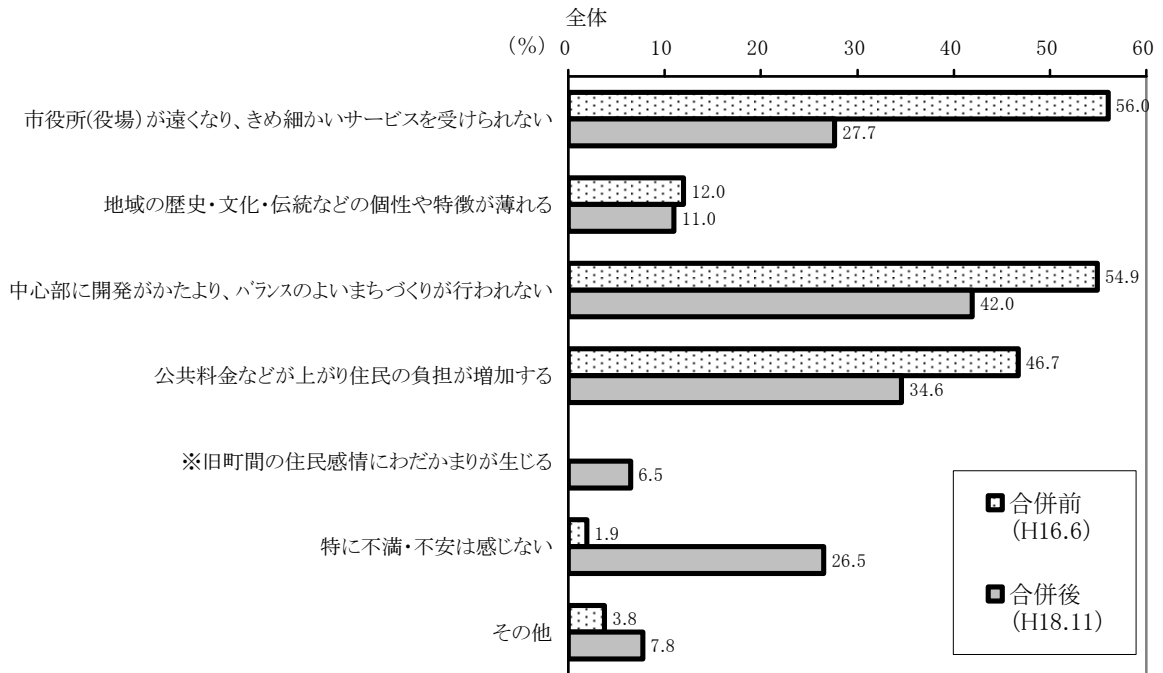
<居住地別（その他、無回答は表示せず）>



(5) 合併への不満や不安-② ～合併前と合併後の比較～

- 合併前の平成 16 年 6 月に実施した新しいまちづくりに向けたアンケートでは、前の (4) とほぼ同内容の選択肢[※]を設定して合併に対する不満と不安をたずねています。当時の結果と今回の結果を比較すると、全体ではすべての項目で不満・不安が減少している傾向が見られ、「特に不満・不安は感じない」が 1.9%から 26.5%へ 24.6 ポイント増加しています。

※H16 アンケートにあって今回にない選択肢として「愛着のある現愛の町の名前がなくなる」(全体 15.1%)がある。

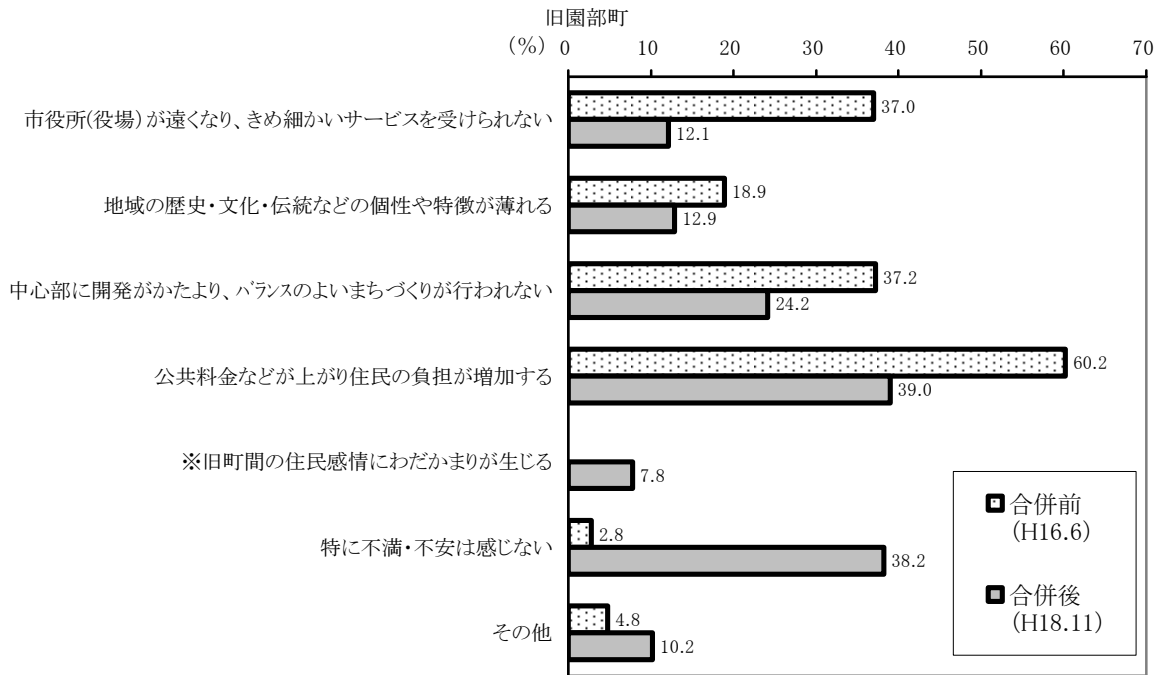


- 居住地別では、旧美山町で「市役所(役場)が遠くなり、きめ細かいサービスを受けられない」がマイナス 33.0 ポイントと、他地域に比べ特に減少している一方、他地域ではマイナス傾向である「公共料金などが上がり住民の負担が増加する」が 0.6 ポイント増加しています。また、「特に不満・不安は感じない」は、旧園部町では 35.4 ポイントの増加であるのに対して、他地域では約 20 ポイントの増加に留まり、不満・不安の軽減度合いについては地域差が見られます。

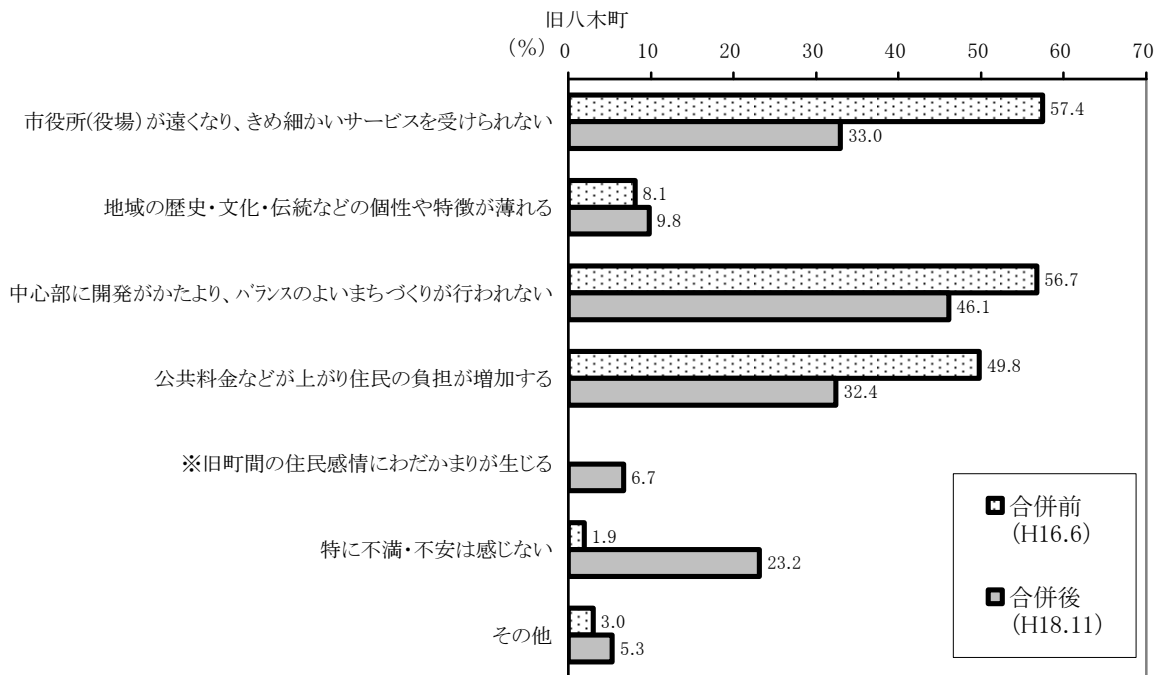
合併後値-合併前値の旧町ごとの比較

	市役所(役場)が遠くなり、きめ細かいサービスを受けられない	地域の歴史・文化・伝統などの個性や特徴が薄れる	中心部に開発がかたより、バランスのよいまちづくりが行われない	公共料金などが上がり住民の負担が増加する	特に不満・不安は感じない	その他
全体	-28.3	-1.0	-12.9	-12.1	24.6	4.0
旧園部町	-24.9	-6.0	-13.0	-21.2	35.4	5.4
旧八木町	-24.4	1.7	-10.6	-17.4	21.3	2.3
旧日吉町	-28.2	2.4	-10.2	-9.6	20.8	2.2
旧美山町	-33.0	-2.1	-14.7	0.6	18.4	5.8

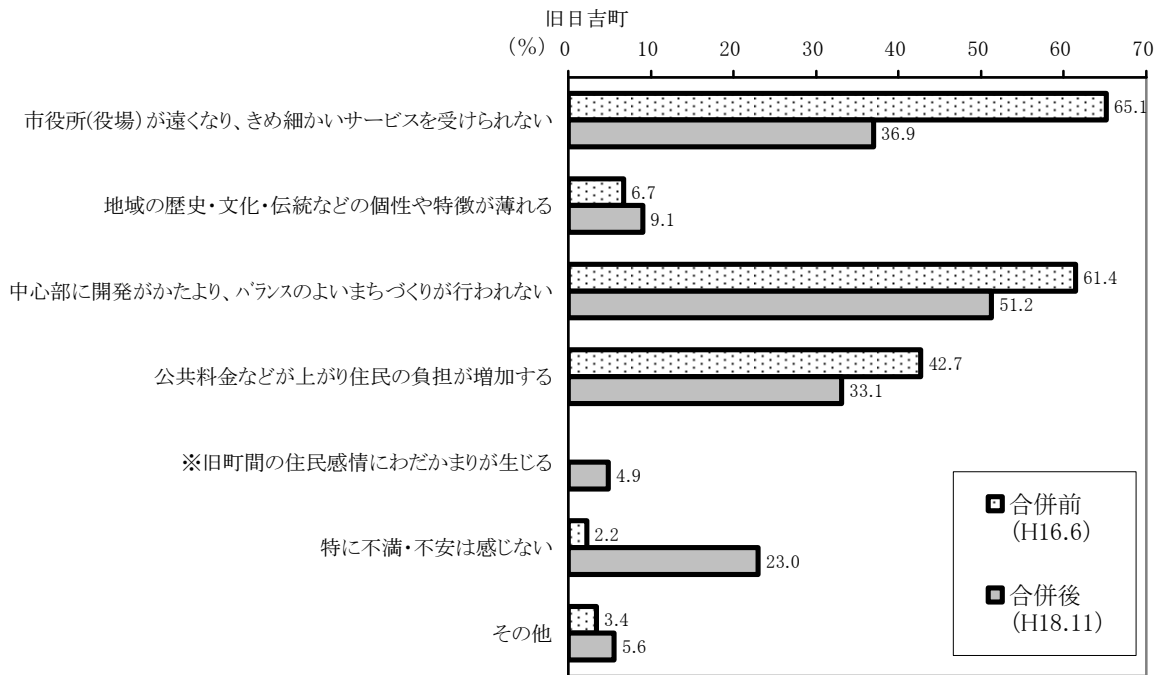
※グレーの網は特徴的な変化が見られる値



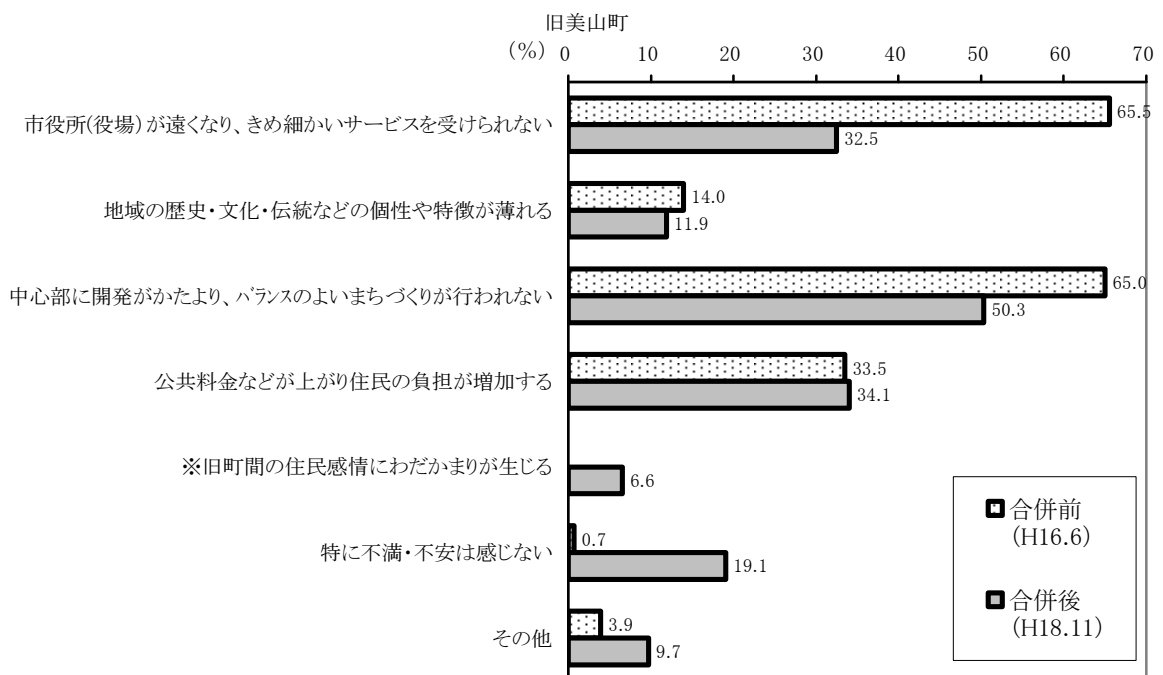
※H16年アンケートにない選択肢



※H16年アンケートにない選択肢



※H16年アンケートにない選択肢



※H16年アンケートにない選択肢

4 南丹市の将来の姿やまちづくりへの参加意向

(1) 将来の南丹市をどのようなまちにしたいか

あなたは、将来の南丹市をどのようなまちにしたいですか。《4つまで選んでください》

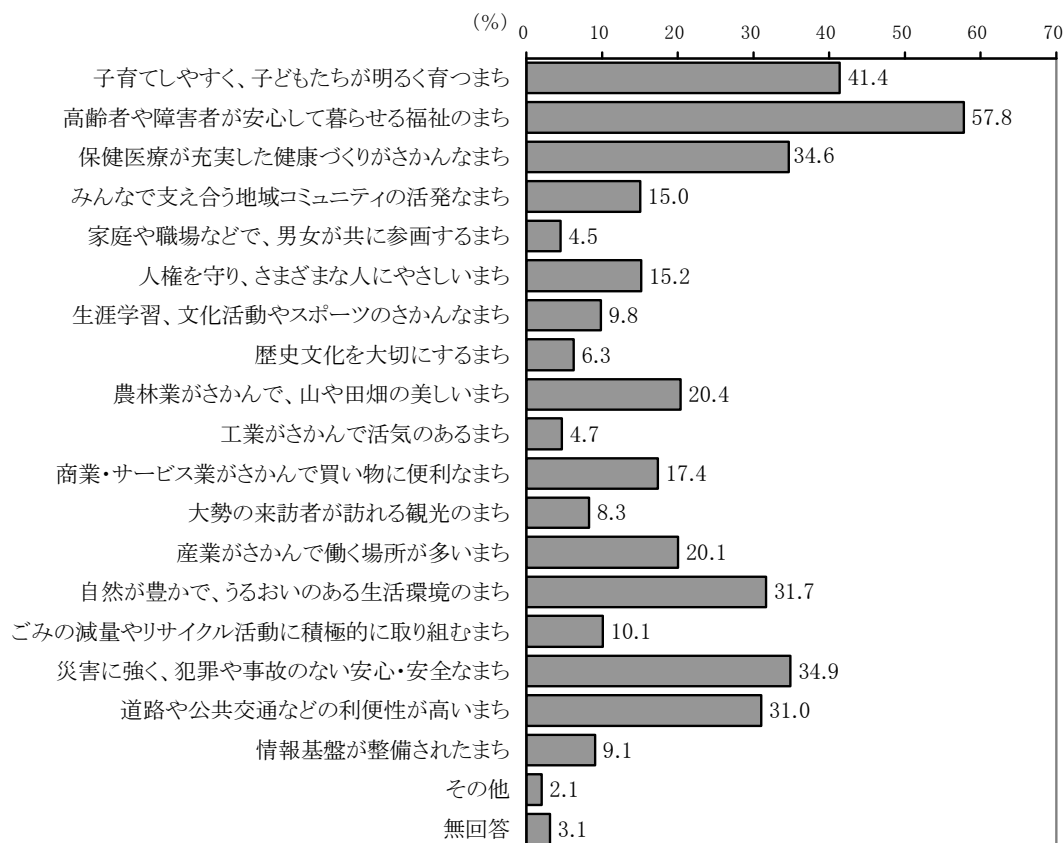
全体数=1,351

○全体では、「高齢者や障害者が安心して暮らせる福祉のまち」が57.8%と最も多く、次いで「子育てしやすく、子どもたちが明るく育つまち」41.4%、「災害に強く、犯罪や事故のない安心・安全なまち」34.9%、「保健医療が充実した健康づくりがさかんなまち」34.6%の順になっています。

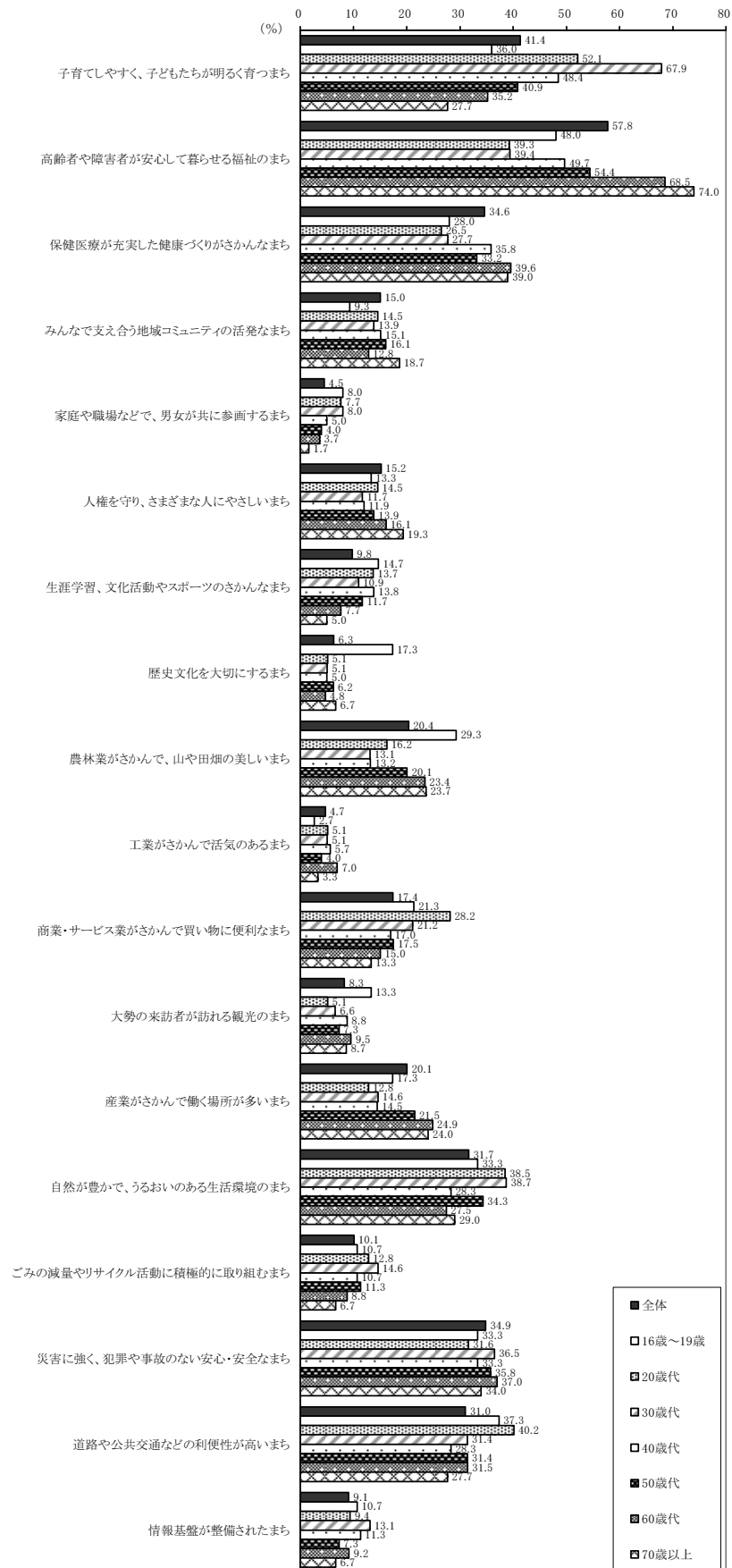
○年齢層別では、10歳代で「歴史文化を大切にするまち」「農林業がさかんで、山や田畑の美しいまち」が高く、30歳代で「子育てしやすく、子どもたちが明るく育つまち」が高く、60歳代以上で「高齢者や障害者が安心して暮らせる福祉のまち」が高くなっています。

○居住地別では、旧園部町で「災害に強く、犯罪や事故のない安心・安全なまち」が特に高く、旧美山町で「保健医療が充実した健康づくりがさかんなまち」が特に高くなっています。他の選択肢においても居住地別の違いが目立つ結果となっています。

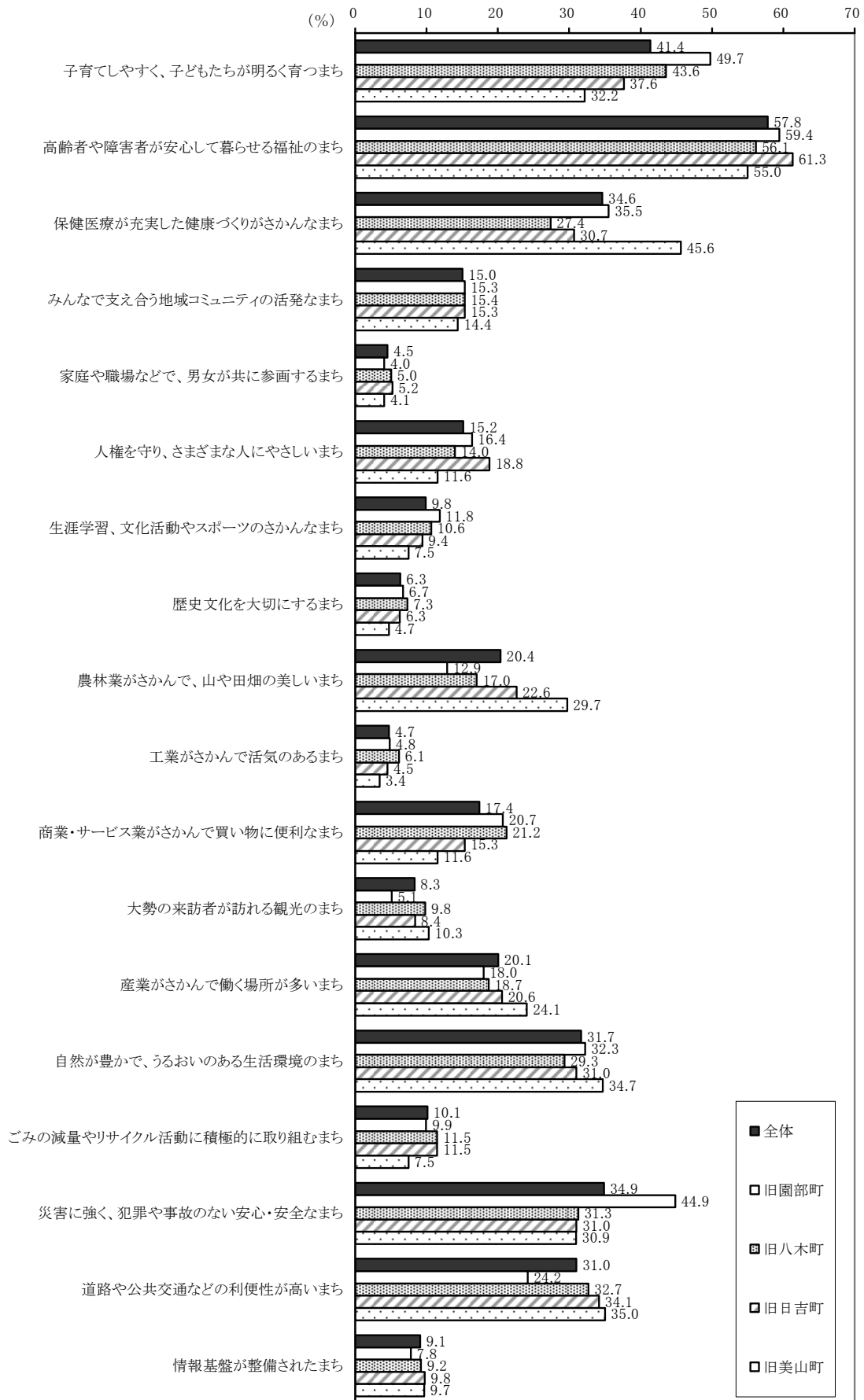
<全体>



<年齢層別（その他、無回答は表示せず）>



<居住地別（その他、無回答は表示せず）>



(2) 南丹市を住みよいまちにするために市民ができること

住みよいまちづくりのためには、市民の皆さんの参加が必要です。南丹市をもっと住みよいまちにするために、市民の皆さんができることはどのようなことだと思いますか。《3 つまで選んでください》

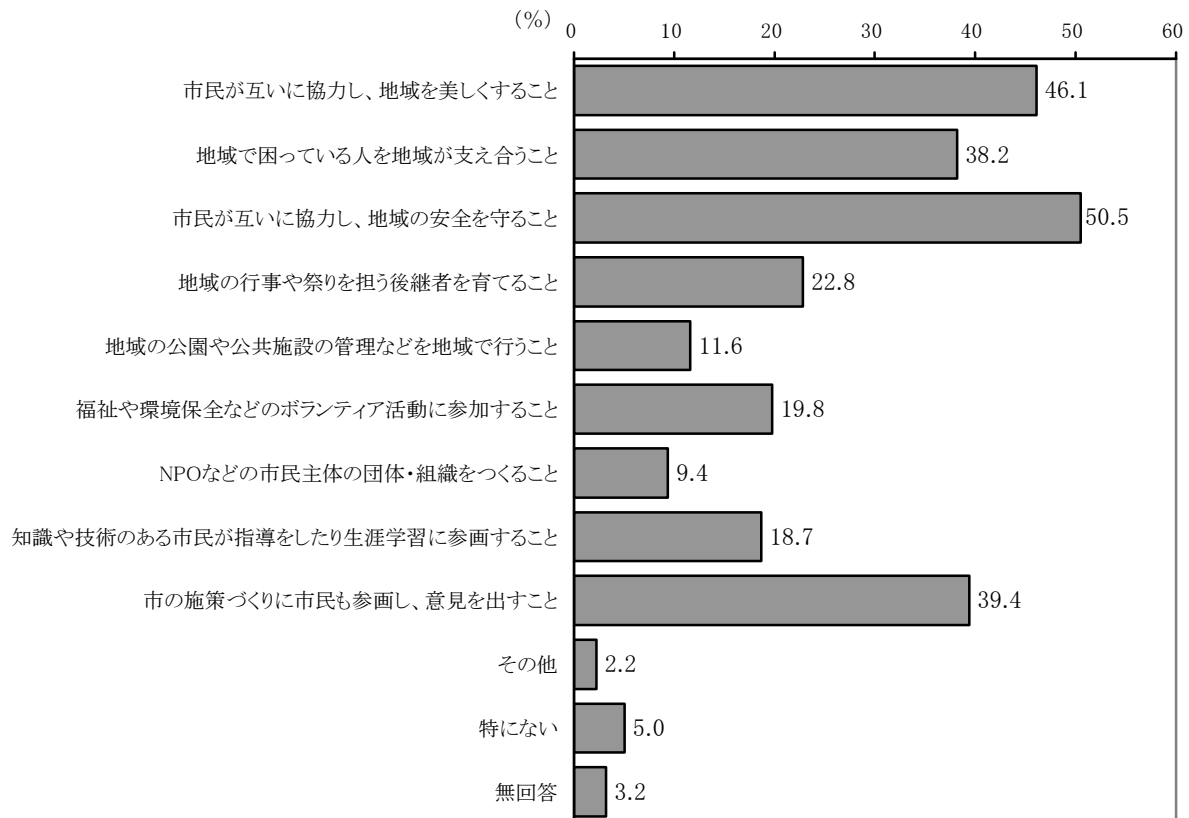
全体数=1,351

○全体では、「市民が互いに協力し、地域の安全を守ること」が50.5%と最も多く、次いで「市民が互いに協力し、地域を美しくすること」46.1%、「市の施策づくりに市民も参画し、意見を出すこと」39.4%、「地域で困っている人を地域が支え合うこと」38.2%の順となっています。

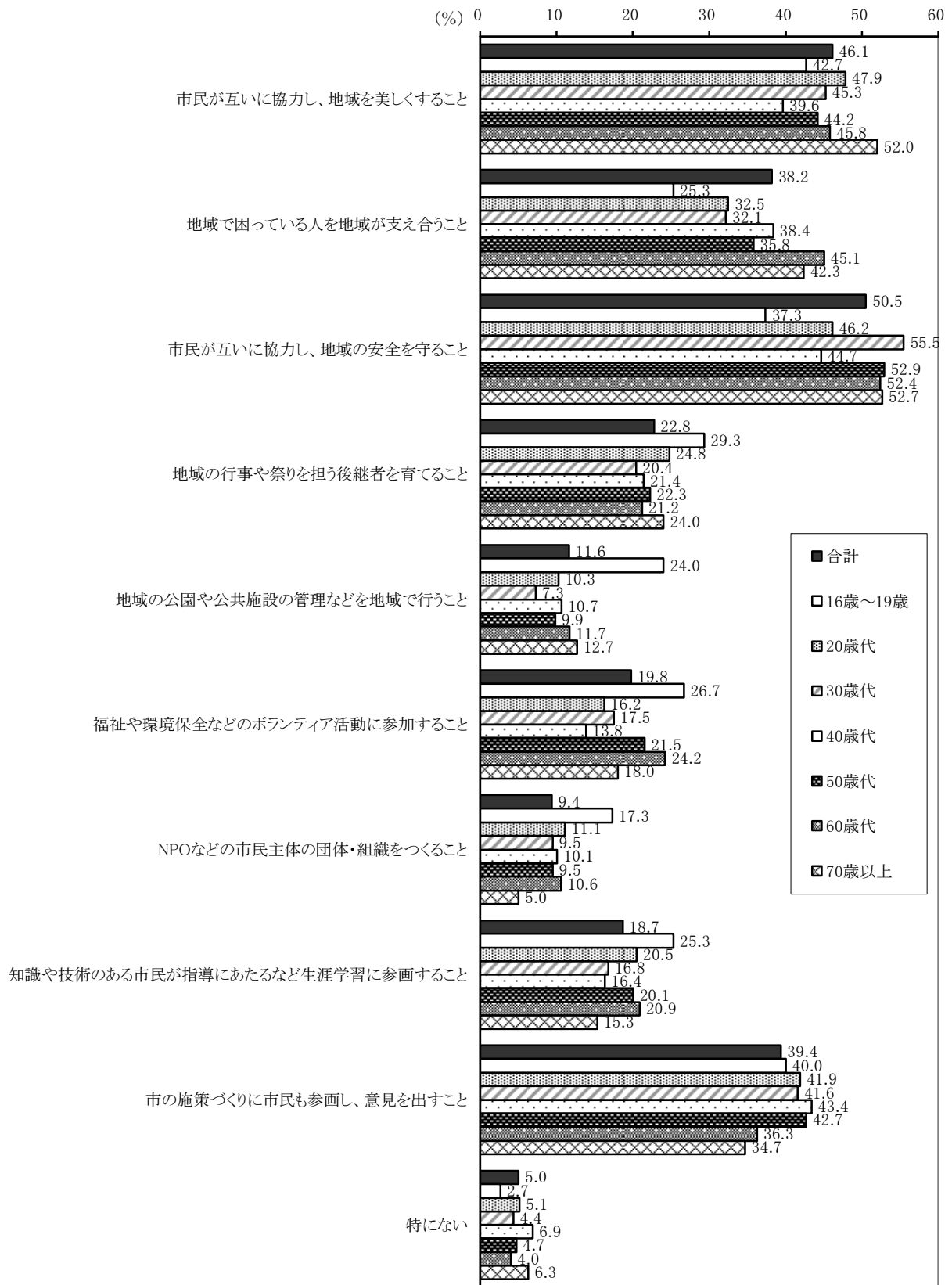
○年齢層別では、「地域で困っている人を地域が支え合うこと」はほぼ年齢層が高いほど高くなる傾向が見られます。他の選択肢においても年齢層別の違いが目立つ結果となっています。

○居住地別には、「市民が互いに協力し、地域の安全を守ること」は地域ごとの差が見られ、最も高い旧園部町で55.6%、最も低い美山町で45.0%となっていますが、他の選択肢については特に目立った差（10ポイント以上の差）は見られません。

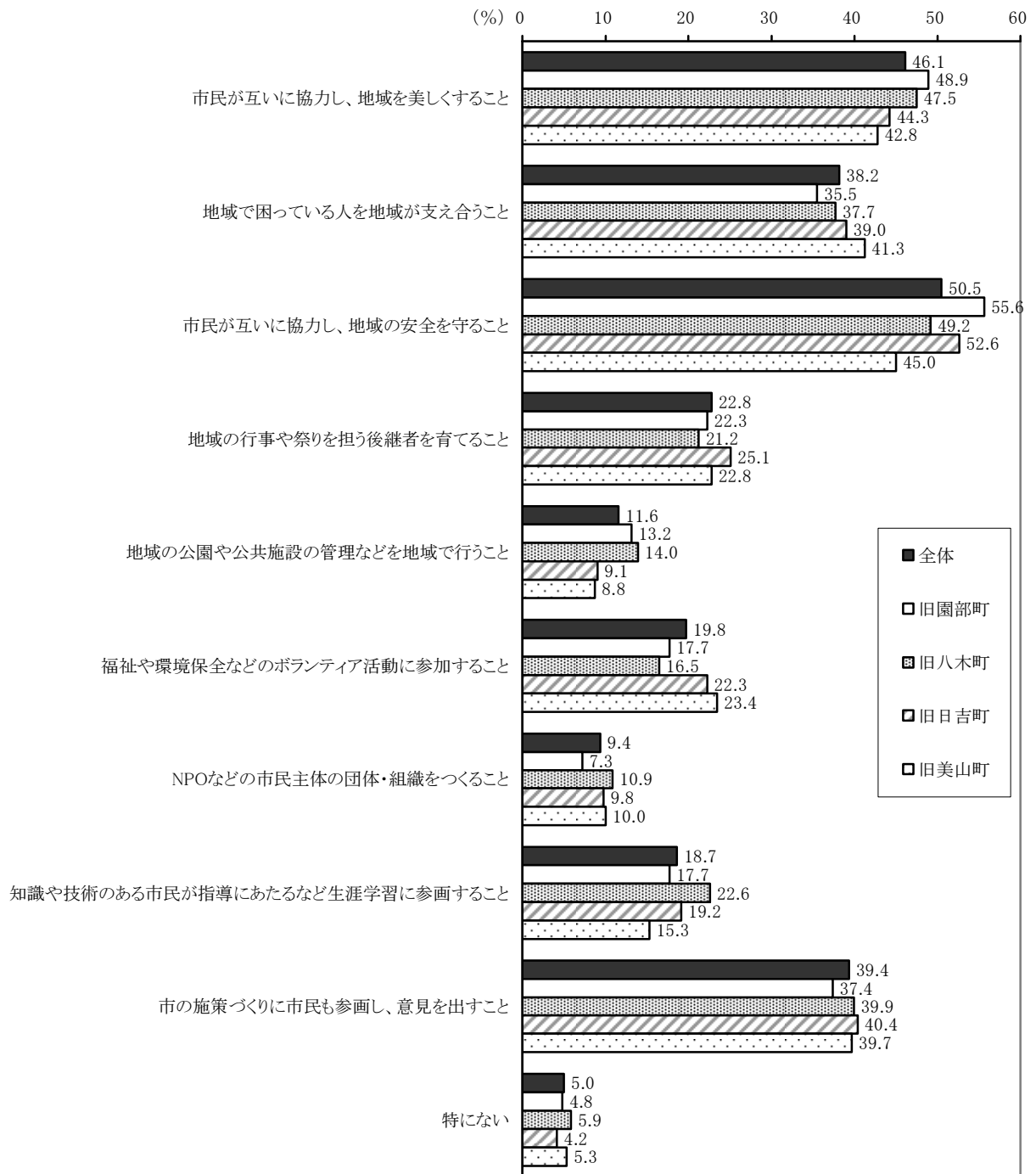
<全体>



<年齢層別（その他、無回答は表示せず）>



<居住地別（その他、無回答は表示せず）>



(3) 自分自身が参加できるまちづくり

では、あなたが『地域のまちづくりに参加する』とすれば、どのようなことができますか。《3つまで選んでください》

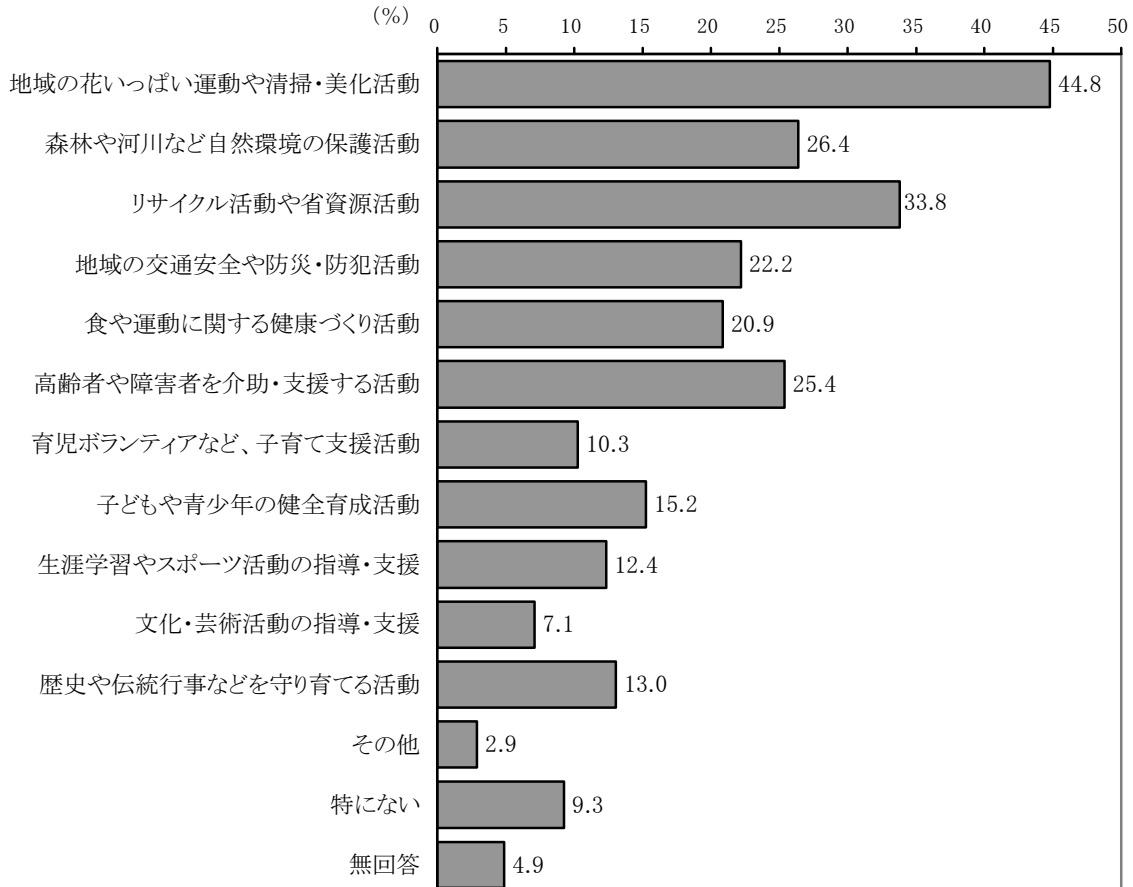
全体数=1,351

○全体では、「地域の花いっぱい運動や清掃・美化活動」が44.8%と最も多く、次いで「リサイクル活動や省資源活動」33.8%、「森林や河川など自然環境の保護活動」26.4%、「高齢者や障害者を介助・支援する活動」25.4%の順となっています。

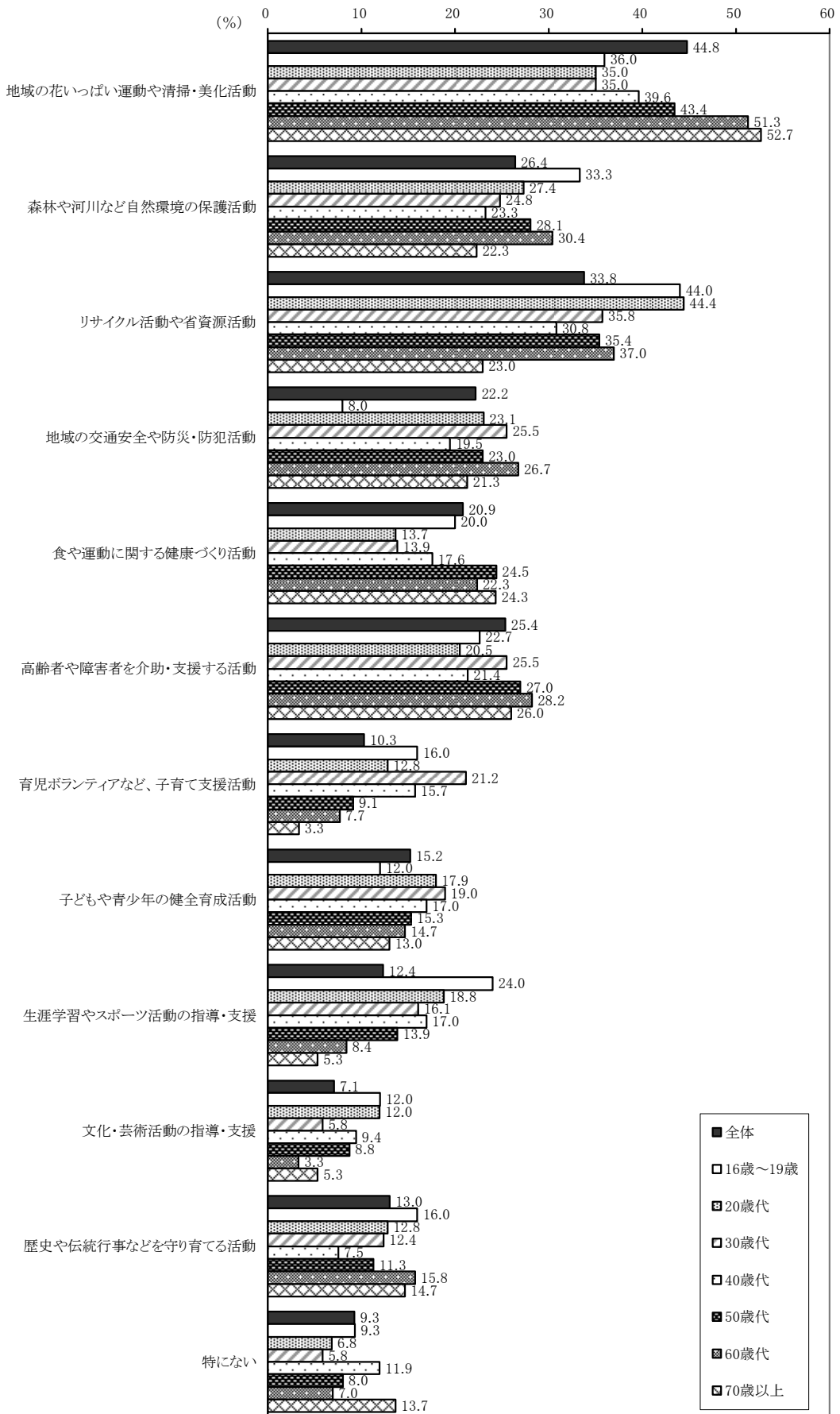
○年齢層別では、「地域の花いっぱい運動や清掃・美化活動」は年齢層が高いほど高い傾向が見られ、10歳代と20歳代で「リサイクル活動や省資源活動」が高く、「生涯学習やスポーツ活動の指導・支援」は年齢層が低いほど高い傾向が見られます。他の選択肢においても年齢層別の違いが目立つ結果となっています。

○居住地別には、「森林や河川など自然環境の保護活動」は地域ごとの差が見られ、最も高い旧美山町で35.0%、最も低い八木町で21.8%となっています。同じく「育児ボランティアなど、子育て支援活動」は、最も高い旧園部町で14.2%、最も低い美山町で6.3%となっています。

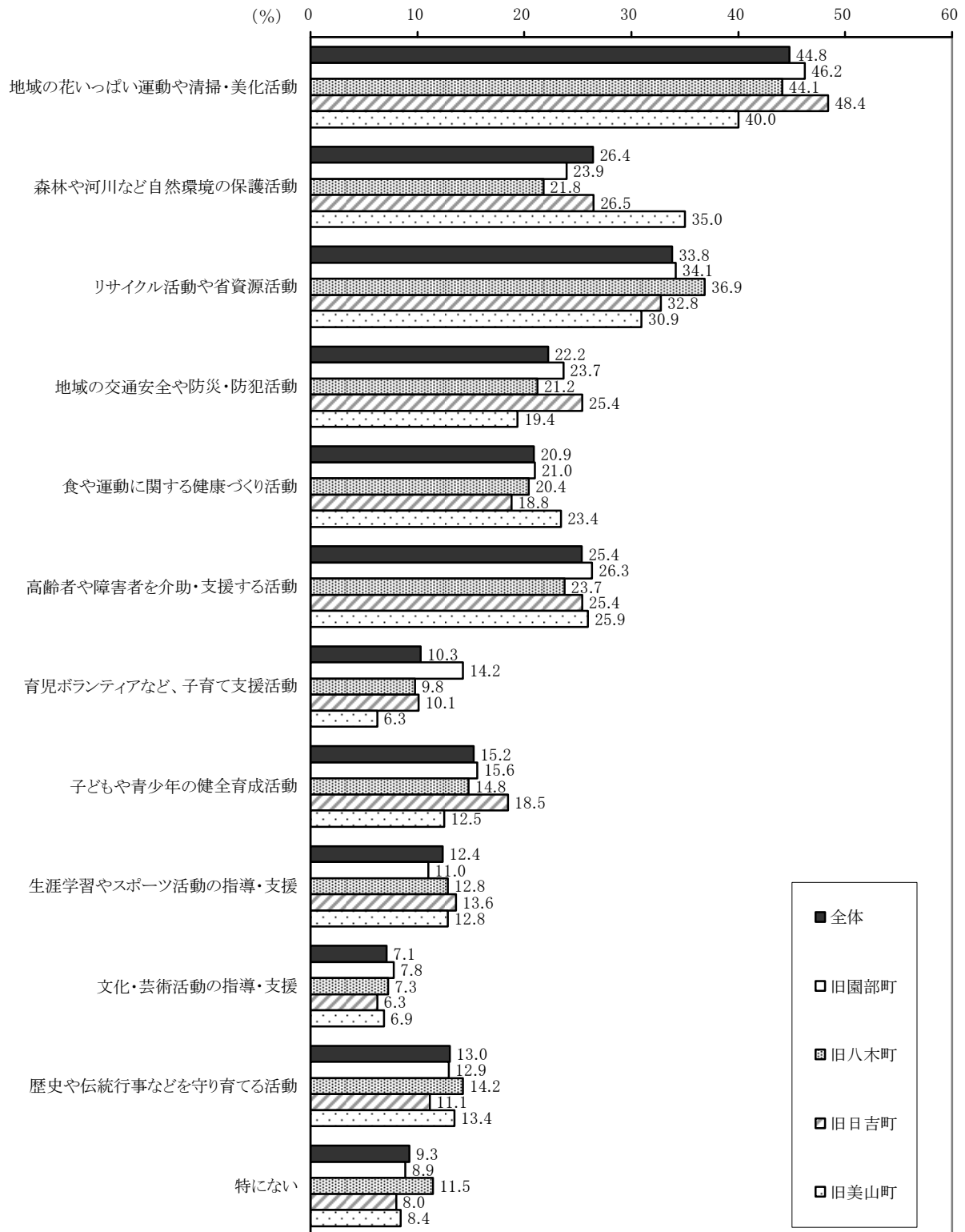
<全体>



<年齢層別（その他、無回答は表示せず）>



<居住地別（その他、無回答は表示せず）>



Ⅲ 調査結果の分析

今回のアンケート調査結果に平成 16 年に実施した「新しいまちづくりに向けたアンケート」調査結果※を加え、「南丹市総合振興計画」の策定において特に留意すべき市民意識を次の通りに抽出します。

※「新しいまちづくりに向けたアンケート」調査結果については、平成 16 年 6 月現在の旧 4 町の回答合計を現在の南丹市にそのまま当てはめている。

1 定住意向

「新しいまちづくりに向けたアンケート」調査結果(平成 16 年)より

これからも本市に住みたいとする回答者が 77.4%である一方、市外に転出したいとする市民が 13.8%に及んでいます。居住地別には旧美山町の定住意向(85.4%)が高く、旧八木町の定住意向(70.8%)が低くなっています。

また、引越したい理由としては、買い物などの日常生活の不便さや、働く場が少ないこと、通勤・通学の不便さが多くなっています。

2 本市の誇り

「新しいまちづくりに向けたアンケート」調査結果(平成 16 年)より

本市の誇りとしては、山林・河川・田園風景などの自然環境が 7 割を超えて特に多く、続いて安心して暮らせる住環境が続いています。他の選択肢は約 2 割台までに留まっています。居住地別に、他地域と異なった傾向としては旧園部町で大学や専門学校が多いこと、旧八木町で医療施設が多いこと、旧美山町で山林・河川・田園風景などの自然環境が 9 割と特に高いことがあげられます。

3 住みやすさや行政サービス等への評価

「南丹市まちづくりアンケート」調査結果(平成 18 年)及び「新しいまちづくりに向けたアンケート」調査結果(平成 16 年)より

本市が住みやすいと感じている市民が 54.8%、住みにくいと感じている市民が 42.0%で、住みやすいと感じている市民は旧園部町で特に高くなっています。

住みやすい理由としては全体で自然環境に恵まれていることが特に多く、次いで近所づきあいがしやすいことがあげられていますが、居住地域別では異なっており、旧園部町では道路環境や子育て環境、買い物などの利便性が、旧八木町では公共交通の利便性が、旧日吉町と旧美山町では農業・林業に適した環境や近所づきあいのしやすさがあげられています。

住みにくい理由としては鉄道やバスが不便なことや日常生活の不便さが上位となっていますが、同様に居住地域別では異なっており、旧美山町では医療や福祉サービスが不十分であることが他地域に比べて目立って高くなっています。(以上「南丹市まちづくりアンケート」調査結果より)

また、暮らしにおいて満足が不満足を上回るものとしては、自然環境、教育施設、文化施設、福祉施設やごみの分別収集・リサイクル活動があがっています。逆に不満足が満足を上回るものとしては、雇用の場や買い物できる施設、鉄道やバス、若者定住のための公営住宅、企業誘致があがっています。（以上「新しいまちづくりに向けたアンケート」調査結果より）

4 合併への評価

「南丹市まちづくりアンケート」調査結果(平成 18 年)及び「新しいまちづくりに向けたアンケート」調査結果(平成 16 年)より

合併によって特に良くなっていないとする回答が 67.2%に及び、多くの市民がまだ合併の成果が出ていないと感じています。

一方、合併によって今後期待することとしては、新しい取り組みによる活気のあるまちづくりや各地域の個性が合わさった町の総合力が特に多くなっています。合併前に比べて合併後に期待が高まったものとして、新しい取り組みによる活気のあるまちづくりがあげられ、逆に低くなったものとして予算の集約による財政基盤の強化があげられます。

居住地別に、合併前後の差が全体傾向と大きく異なっているのは旧美山町で、新しい取り組みによる活気のあるまちづくりへの期待が他地域より大きく高まり、逆に予算の集約による財政基盤の強化への期待が他地域より大きく下がりました。

合併への不満や不安としては、中心部に開発がかたより、バランスのよいまちづくりが行われていないことや公共料金などが上がり住民の負担が増加したことが高くなっています。また、年齢層が高くなるにつれて市役所の窓口が遠くなることや住民負担の増加への不安・不満が高くなっています。居住別地区では、八木町、日吉町、美山町で市役所の窓口が遠くなることや中心部に開発がかたよることへの不満・不安が高く、園部町では他地域に比べ特に不満・不安は感じないとする回答が高くなっています。

ただし、これらの不満・不安については合併前に行ったアンケート結果と比べると減少傾向が見られます。

5 今後のまちづくりへの希望

「南丹市まちづくりアンケート」調査結果(平成 18 年)及び「新しいまちづくりに向けたアンケート」調査結果(平成 16 年)より

自分ならば南丹市をどのようなまちにしたいか、については全体で高齢者や障害者が安心して暮らせる福祉のまち、子育てしやすく子どもたちが明るく育つまち、災害に強く犯罪や事故のないまち、保健医療が充実した健康づくりがさかんなまちが上位で、健康や福祉、子育てや安全管理への意識が高い傾向がはっきり表れています。ただし居住地別で違いも見られ、旧園部町では災害に強く、犯罪や事故のない安心・安全なまちが特に高く、旧美山町では保健医療が充実した健康づくりがさかんなまちが特に高くなっています。（以上「南丹市まちづくりアンケート」調査結果より）

また、新しいまちづくりで力を入れていくべき取り組みとして多いものは、若者が定住するためのまちづくりや公共交通網の整備、自然環境の保全、高齢者福祉の充実・介護保険への対応となっています。ただし居住地別で違いも見られ、旧八木町では下水道などの整備が特に高く、旧美山町では自

然環境の保全、高齢者福祉の充実・介護保険への対応、農林業の振興が特に高くなっています。（以上「新しいまちづくりに向けたアンケート」調査結果より）

6 市民参画への考え

「南丹市まちづくりアンケート」調査結果(平成 18 年)より

南丹市を住みよいまちにするために市民ができることとしては、市民が協力して地域の安全を守ることや、市民が協力して地域を美しくすること、市の施策づくりに市民も参画して意見を出すこと、地域で困っている人を地域が支え合うことなどが多くなっています。

ただし、地域で困っている人を地域が支え合うことは年齢層が高いほど高くなる傾向が見られるなど、他の項目も年齢層別の差も見られます。

また、自分自身が地域のまちづくりに参加するとすれば、どのようなことができるかについては、地緑化運動や清掃・美化活動、リサイクル活動や省資源活動、森林や河川など自然環境の保護活動、高齢者や障害者を介助・支援する活動が多くなっています。

地域緑化運動や清掃・美化活動は年齢層が高いほど高い傾向が見られ、若年層でリサイクル活動や生涯学習・スポーツ活動の指導・支援が高いなど年齢層別の差も見られます。

また、居住地別にも森林や河川など自然環境の保護活動は旧美山町で高く、育児ボランティアなど、子育て支援活動は、旧園部町で高くなっています。